



# CSR REPORT

東芝テックグループ CSR報告書

## 2008

## 東芝テックグループの概要

社名	東芝テック株式会社 TOSHIBA TEC CORPORATION	設立	1950年2月21日
本社所在地	〒141-8664 東京都品川区東五反田2-17-2 オーバルコート大崎マークイースト	資本金	399億円(東京証券取引所第1部上場)
取締役社長	鈴木 護	売上高	4,929億円(2008年3月期)
		従業員数	20,673名(2008年3月末現在 連結)

## 「東芝テックグループCSR報告書2008」の発行にあたって

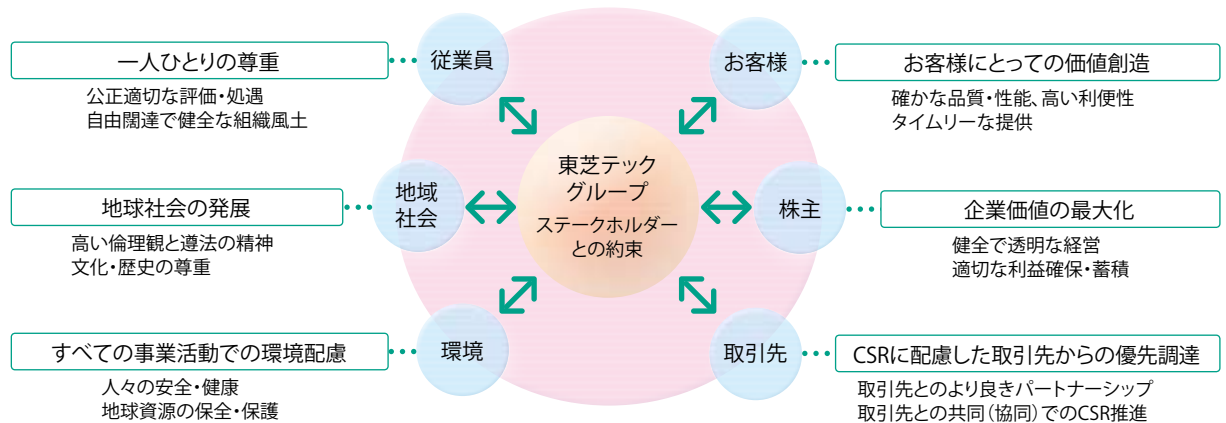
東芝テックグループでは、健全な事業活動には、株主、お客様、従業員、地域社会、環境など、東芝テックグループのすべてのステークホルダーに配慮した事業運営が必要であるとの認識のもと、2005年4月にCSR推進センターを新設、CSR推進体制を確立させるとともに、その説明責任を果たすため、本年もより報告範囲を充実させた「東芝テックグループCSR報告書2008」を発行いたしました。

本報告書では、東芝テックグループへの理解を深めていただくため、CSR活動を「マネジメント」、「人と東芝テック」、「環境と東芝テック」の3つの観点から、さまざまな活動の考え方、仕組みをわかりやすく紹介することに重点をおきました。

本報告書を通じて、多くのステークホルダーの方々に東芝テックグループのCSR活動をご理解いただけるよう、今後とも内容の充実に努めてまいります。

### ステークホルダーとの関わり

私たちは、世界中の数多くのステークホルダーに支えられていることを認識し、経営理念「私たちの約束」を守ることにより、ステークホルダーとともに発展することをめざしています。



### 報告対象範囲

報告期間	2007年度(2007年4月1日～2008年3月31日)
対象組織	原則として東芝テックグループ (東芝テック(株)および東芝テック(株)の連結対象子会社)
環境データ	東芝テック(株)および連結対象子会社28社

### 発行時期

前回	2007年6月
次回	2009年6月発行予定

### 参考にしたガイドライン

GRI (Global Reporting Initiative)
「サステナビリティ・リポーティングガイドライン2002」
「サステナビリティ・リポーティングガイドライン2006 第三版 和訳暫定版」
環境省 「環境報告書ガイドライン」(2003年度版)
環境省 「事業者の環境パフォーマンス指標ガイドライン」 (2003年度版)

モノ創りへのこだわりと挑戦  
いつでもどこでもお客様とともに

## contents

- 03 特集
- 05 トップメッセージ

### 序章

- 06 経営理念
- 07 事業展開
- 08 中期経営計画

### マネジメント

- 09 コーポレート・ガバナンス
- 10 CSR マネジメント
- 11 コンプライアンス
- 13 品質マネジメント
- 14 環境経営マネジメント

### 人と東芝テック

- 15 株主・投資家
- 17 お客様
- 19 従業員
- 23 取引先
- 24 社会貢献活動

### 環境と東芝テック

- 29 環境経営マネジメント
- 32 エコプロダクト
- 36 エコプロセス
- 38 環境コミュニケーション

- 39 第三者意見
- 40 GRI ガイドライン
- 41 問い合わせ
- 42 アンケート



# 特集



## 『社業を活かした 社会貢献活動』



東芝テックグループは、持続可能な社会の実現に向け、常に社業を生かした社会貢献に心がけています。

東芝テックグループでは、当社製品の寄贈やサービスを提供し、活用していただいています。今後も積極的に社業による社会貢献を推進していきます。

### ■ 東芝テック

NGO「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」東京本部事務局に、当社MFP（デジタル複合機）を寄贈し、合わせて機器のメンテナンスを行っています。

「セーブ・ザ・チルドレン」は、子どもたちのための民間の国際援助団体で、国連が採択した「子どもの権利条約」を理念とし、世界28ヶ国の拠点から128ヶ国の子どもたちを支援しています。海外との情報交換や、教育プログラムの実施に当社のMFPが大活躍しています。



### ■ 東芝テック深圳社

中国四川省の省都、成都にある「パンダ繁殖研究基地」に当社MFPを寄贈しました。

「パンダ繁殖研究基地」は絶滅の危機にあるジャイアントパンダの保護と個体数増加を目的に設立された研究機関で、1987年に設立されました。

今回寄付したMFPは、繁殖研究基地の研究室・ライブラリーに設置され、活用いただいております。



### ■ 東芝アメリカビジネスソリューション社

アメリカメジャーリーグのロサンゼルス・エンゼルス・オブ・アナハイムと連携し、地元エンゼルススタジアムでのホームゲームで、エンゼルス選手の3塁打を打つ毎に、プリンタを地元学校に寄贈するというプログラム「Triples for kids」を2007年シーズン中に実施しました。

エンゼルス選手の活躍で、地元カリフォルニアの学校にプリンタを寄贈できました。



### 消せるトナー「e-blue」MFP、社内で活躍中！

東芝テックでは、東芝が開発した消せるインク「e-blue」をコピートナーに利用したMFPを開発・販売しています。このトナーは、用紙を熱処理することによって印刷内容を消去することができるため、1枚の用紙を繰り返し利用することができます。



この「e-blue MFP」を社内においても積極的に活用することによって、従業員一人ひとりの環境マインドを醸成し、また社内で構築した用紙再利用の運用モデルを積極的にお客様に提案し、製品の拡販を図っています。

#### \*「e-blue」の仕組み

インクに消去剤を加えることによって、加熱時に色素と発色剤の結びつきを断ち切り、消去剤と発色剤を結びつかせて色素を無色化し、情報の消去を可能にしています。

### ユニバーサルデザイン(UD)活動

ユニバーサルデザイン(UD)の実現をめざした、JIS・ISOへの準拠、米国リハビリテーション法508条などの法令遵守、高齢者・障がい者を含めたより多くの方への配慮は、企業に求められている社会的責任(CSR)の一つとして、最も注目を集めています。

東芝テックは、UD実現のため東芝グループの一員として積極的にUDへ取り組み、誰にでもわかりやすく使いやすい「ユニバーサルデザイン」商品の開発を進めています。

2007年には、MFPを使用している視覚・聴覚・上肢・下肢に障がいのある方に、実際に当社MFPを操作していただき、UD機能の使用状況確認、ご意見の聴取などを行うユーザー調査を実施しました。



商品開発・調査・研究・組織化などの多面的な活動により、ユニバーサルデザインを推進していきます。

### 環境家計簿「我が家の環境大臣(エコファミリー)」

東芝テックは、2006年から環境家計簿「我が家の環境大臣(エコファミリー)」への参加を推進しています。当初は、社員の関心は、まだ高くはありませんでした。2008年7月に洞爺湖サミットが開催されることで、社会の環境への関心が高まるにつれ、社員も身近な環境家計簿に関心を寄せ、2008年3月末時点で登録率55.2%となりました。



環境家計簿「我が家の環境大臣(エコファミリー)」

WEB トップページURL <http://www.eco-family.go.jp/wagaya.html>



# 高い目標を持って、信頼される「地球内企業」をめざします

## 理念経営の遂行

私たち東芝テックグループは、事業を通じて新しい価値を創造し、社会に貢献するとともに、高い経営倫理の実践を心がけています。

それぞれの国や地域において、お客様、従業員、社会、環境をはじめとしたすべてのステークホルダー（利害関係者）の皆様の信頼を獲得して相互の繁栄を図ることが、企業グループとして持続的な成長を遂げていくうえで不可欠であると考えます。

この考えを具現化して、2004年1月に東芝テックグループ経営理念「私たちの約束」を制定しました。全世界の東芝テックグループ従業員が、経営理念を理解し遂行することが、CSRそのものとの考えの下、従業員一人ひとりがこの経営理念に基づいた「東芝テックグループ行動基準」によって行動することにより、この考えを共有、実践しています。

## 生命・安全・コンプライアンス

CSR遂行の根底にあるのが「生命・安全・コンプライアンスの最優先」です。法令、社会規範、倫理の遵守を最優先し、グローバル市場での公正な競争によって事業を発展させていくことが東芝テックグループの使命です。そのために、全世界の東芝テックグループ従業員に、「東芝テックグループ行動基準」の浸透・徹底を図るとともに、私をCROとして、営業・技術・生産をくまなくカバーするリスク・コンプライアンス体制を構築しています。

生命・安全を脅かす事故の発生を未然に防ぐため、商品の安全を確保することはメーカーの責務です。東芝テックグループでは、グループ・グローバルで品質保証システムを強化し、お客様が安心してお使いいただける商品とサービスの提供に努めています。

## 「地球内企業」としての東芝テック

東芝テックグループは、常に「地球内企業」であることを念頭に事業活動を推進しています。

東芝テックグループの意味する「地球内企業」には、2つの意味を込めています。

一つは、より良い地球環境の実現のために率先して企業としての役割を果たしていくこと。

すべての事業プロセス、すべての製品において、持続可能な社会の構築のため、東芝テックグループでは地球資源の保全・保護を最優先に考えた取り組みとして、2010年度を目標とする環境プランを進め



ています。グローバルな事業活動のあらゆる面で環境負荷を低減するとともに、CO<sub>2</sub>排出量削減にも積極的に取り組んでいます。

もう一つは、世界のそれぞれの国々・地域の文化や歴史、習慣の違いを認識し、尊重する企業であること。

地球上には、民族、性別、年齢など、一人ひとり個性を持ったさまざまな人が生活しています。東芝テックグループでは、これら一人ひとり異なるパーソナリティーが、お互いに啓蒙しあうことにより生まれる新しい発想に注目し、多様性を尊重した人材活用を行って、「地球内企業」の名に相応しい人材の育成に努めていきます。

また、働き方の変革への意識を高め、常に個の付加価値を向上させるための、ワークスタイルイノベーションに取り組んでいます。

この2つをもって社会の持続的成長の実現に貢献していきたいと考えています。

2008年7月

東芝テック株式会社  
取締役社長

鈴木 護

# 私たちの約束

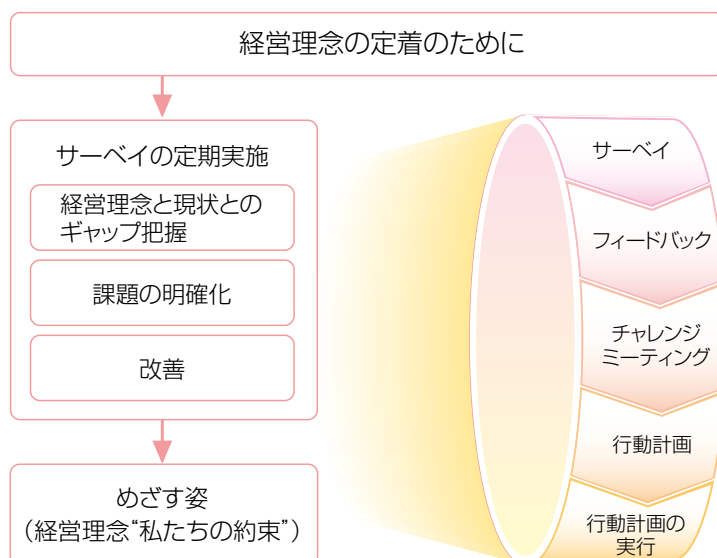
—東芝テックグループの経営理念—

## モノ創りへのこだわりと挑戦 いつでもどこでもお客様とともに

1. 私たちは、お客様にとっての価値創造を原点に発想し、世界のベストパートナーと共に、優れた独自技術により、確かな品質・性能と高い利便性をもつ商品・サービスをタイムリーに提供します。
2. 私たちは、社員一人ひとりを尊重し、それぞれの能力向上に努め、公正かつ適切な評価・処遇を実践すると共に、自由闊達で健全な組織風土と、挑戦し続ける強いプロ集団をつくります。
3. 私たちは、よき企業市民として、高い倫理観と遵法の本質をもち、各国及び地域社会に対する責任を果たすと共に、その文化・歴史を尊重し、地球社会の発展に貢献します。
4. 私たちは、人々の安全・健康と、地球資源の保全・保護のために、すべての事業活動において環境への配慮を優先します。
5. 私たちは、企業価値の最大化を目指し、健全で透明な経営の基に、研究開発などへの積極的な投資、不断の経営変革、並びに、適切な利益の確保と蓄積に努め、これにより株主の期待に応えます。

### 経営理念の定着化

東芝テックグループでは、経営理念「私たちの約束」を事業経営の基本におき、これを東芝テックグループ全員の「共通の価値観」とするべく、経営理念サーベイを実施しています。この経営理念サーベイの「PDCAサイクル」(マネジメントのサイクル)により、全従業員へ経営理念の浸透・徹底を図っています。



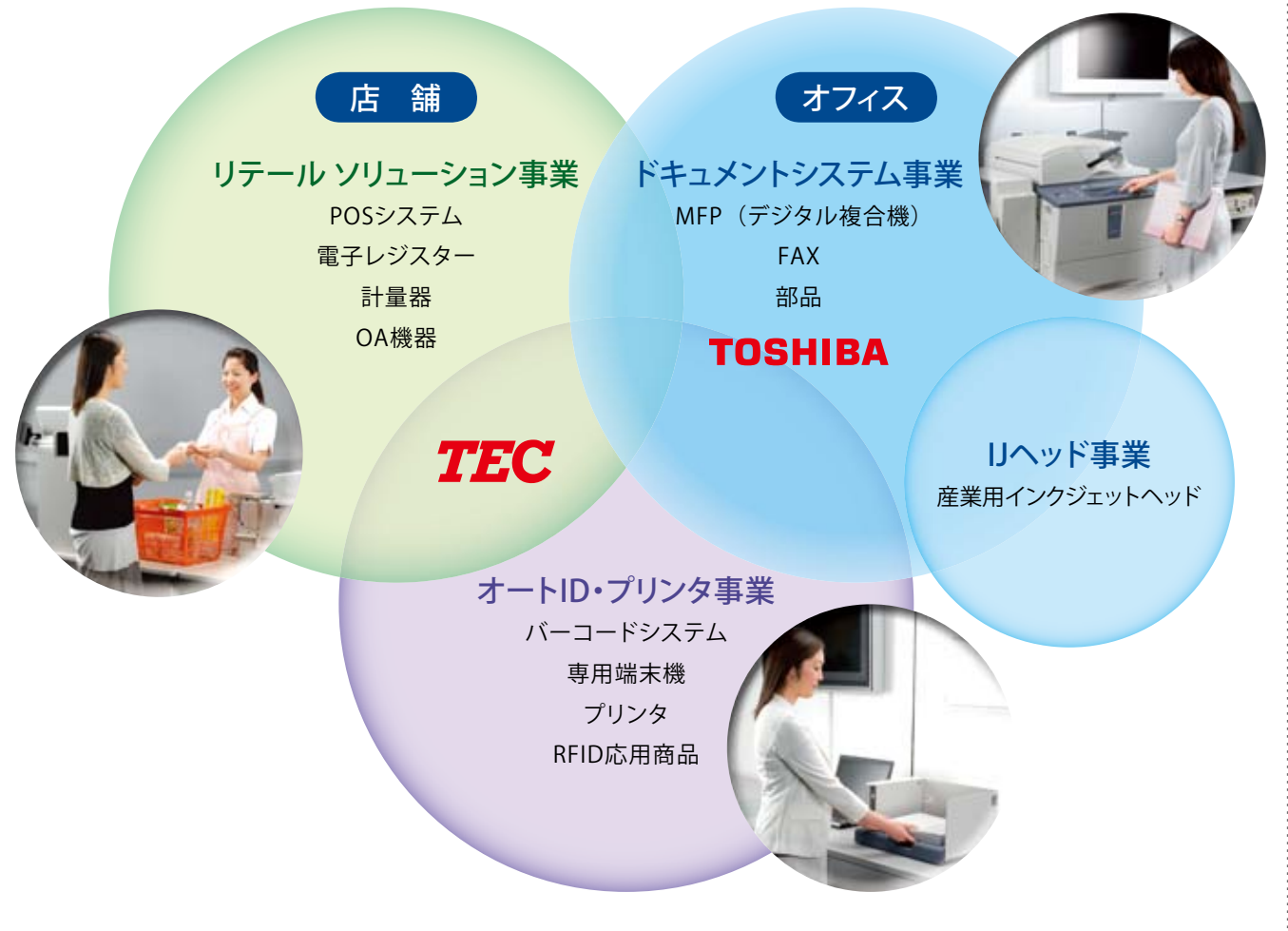
# 私たちの使命は「モノ創り」を通して世界に貢献すること

店舗、オフィス、家庭など、東芝テックグループの製品は多くの分野で活躍。  
世界中のステークホルダーに支えられていることを認識して、事業活動を推進しています。

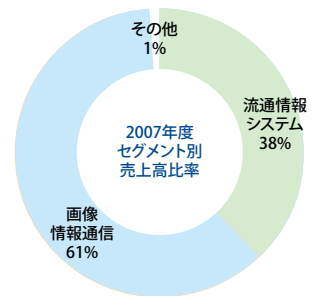
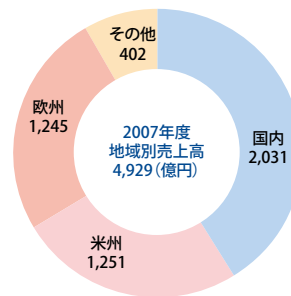
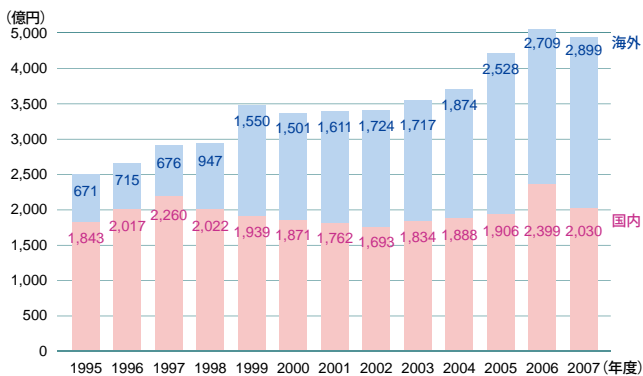
## 東芝テックグループの事業展開

東芝テックグループでは、リテールソリューション、ドキュメントシステム、オートID・プリンタの3つの事業をグローバルに展開しています。

### 各事業分野の強みや販路を共有した事業展開



### 売上高(連結)推移





# 中期経営計画

東芝テックグループの2007年度業績は、家電事業譲渡や前年の大口物件の影響で、売上高については対前年で減収となりましたが、高付加価値商品への注力などにより、営業利益については6年連続の増益を達成するとともに過去最高を更新いたしました。このたびは、2010年度を最終年度とする新たな中期計画を策定するとともに、4月1日付にて、カンパニー制から3事業本部体制へと移行する事業体制改革を実施しました。この体制による機動的で柔軟な事業運営のもと、各事業部門の諸施策実行とイノベーション活動の加速により、「利益ある持続的成長」の実現に邁進してまいります。

## 経営方針

### 「利益ある持続的成長」の実現

- 商品力と販売力の強化による事業拡大
- 外部環境の変化に動じない強固な事業体質の構築

### イノベーション活動の加速

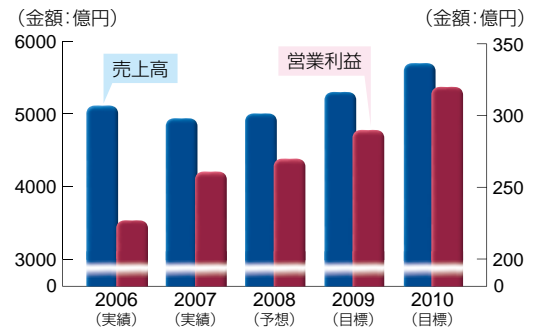
- プロセスイノベーション／バリューイノベーションの加速
- グローバル競争力の強化

### CSR経営の実行

- 生命・安全、コンプライアンスの最優先
- 環境経営の実践

## 業績目標 - グループ全体 -

### 「利益ある持続的成長」の実現



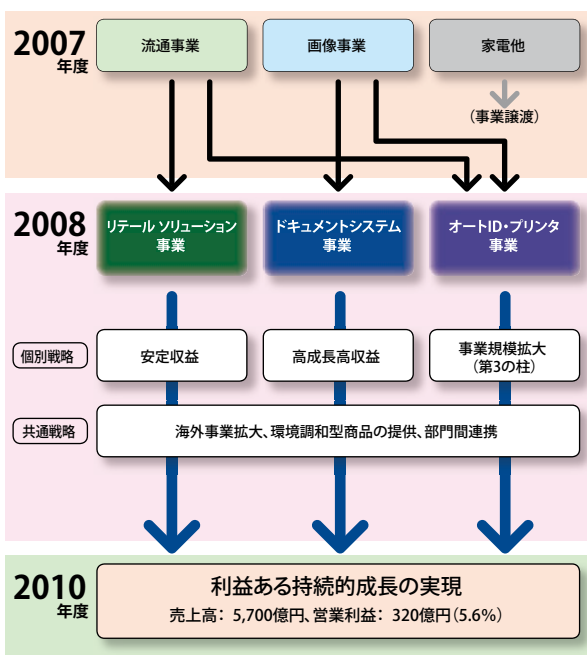
売上伸長 CAGR: 5.0% (07-10年)      営業利益率: 5.6% (10年)

	06年度 (実績)	07年度 (実績)	08年度 (予想)	09年度 (目標)	10年度 (目標)
売上高	5,108	4,930	5,000	5,300	5,700
営業利益	227	261	270	290	320
(営業利益率)	(4.4%)	(5.3%)	(5.4%)	(5.5%)	(5.6%)
経常利益	196	230	235	250	280
当期純利益	108	134	134	135	140

・ 08-10中計レート US \$:100円、EUR:150円  
 ・ 会計制度変更を織込済(のれん、減価償却費)

## 事業体制改革

### 更なる事業拡大に向けて



#### リテールソリューション事業

- 国内POS事業でのトップ地位の維持・強化
- ソリューション提案によるリプレイス推進
- 店舗内トータルソリューションの提供による顧客内シェアアップ
- ストックビジネスの商材開拓・拡販
- 海外POS事業の拡大
- 商品の拡充と販売網の強化
- ソフト開発・保守の基盤整備
- 海外進出日本企業への対応強化

#### ドキュメントシステム事業

- 成長のイノベーション
- 新カラー商品群の市場投入と拡販による事業成長
- MFPオープンプラットフォーム化によるソリューションビジネスの拡大
- アフターセールス収益力強化
- 環境配慮型商品の積極的拡販
- 体質強化のイノベーション
- 売価ダウンに対応したコスト削減
- 市場品質・サービス力の向上
- 構造改革のイノベーション
- グローバル事業体制の改革
- 拠点統合による固定費削減

#### オートID・プリンタ事業

- BCS事業の強化・拡大
- 商品ラインアップの拡充
- 国内外における販売体制の強化
- サプライビジネスの拡大
- RFID商品の創出
- 業種業態別ソリューション提供によるターゲット市場の拡大
- 東芝グループ連携による事業強化
- 特機・プリンタ事業の安定的成長
- 特機国内市場の深耕
- 両面プリンタの国内外での拡販
- 新規商品による新規顧客・市場の開拓

# 事業活動の基盤となる、コーポレート・ガバナンス

経営の透明性の確保、経営監視・内部統制機能の強化などに取り組んでいます。

## 企業価値の向上をめざして

東芝テックは、ステークホルダーの期待に応え、継続的に企業価値を高めていくための重要な経営政策と認識し、経営の効率性および透明性の向上、取締役会および監査役（会）の機能の強化を図るため、各種の施策に取り組んでいます。

会社の機関面では、監査役制度の下で執行役員制度を導入し、「監督・意思決定に係る機能」の分離などを図るとともに、取締役の員数の適正化を図り、意思決定の迅速性・機動性の向上に努めています。併せて、経営の透明性の確保を企図して、社外取締役（2名）および社外監査役（2名）を登用するとともに、経営責任の明確化および経営環境の変化への迅速な対応を企図して、取締役の任期を1年としております。

また、東芝テックグループは、業務の有効性および効率性、財務報告の信頼性、事業活動に係る法令等の遵守並びに資産の保全という観点から、内部統制システムの充実に努めています。

コンプライアンスについては、グループ共通の行動規範として「グループ行動基準」を制定し、従業員一人ひとりがこの行動基準を遵守し、法令・社会規範・倫理に則した行動を行うよう、周知徹底に取り組んでいます。また、「リスク・コンプライアンス委員会」を設置し、この委員会の統括下でコンプライアンスの徹底にグループ一体となって取り組んでいます。

経営監視面では、取締役による業務執行の監督、監査役による業務監査、会計監査人による会計監査を実施するとともに、社長直属組織「経営監査部」による内部監査を実施しております。

2007年度においては、財務情報の信頼性確保に関する内部統制システムの構築、反社会的勢力の排除に向けた体制の整備、情報セキュリティおよび個人情報保護の強化、コンプライアンス意識の徹底を中心に、各種施策を実施しました。

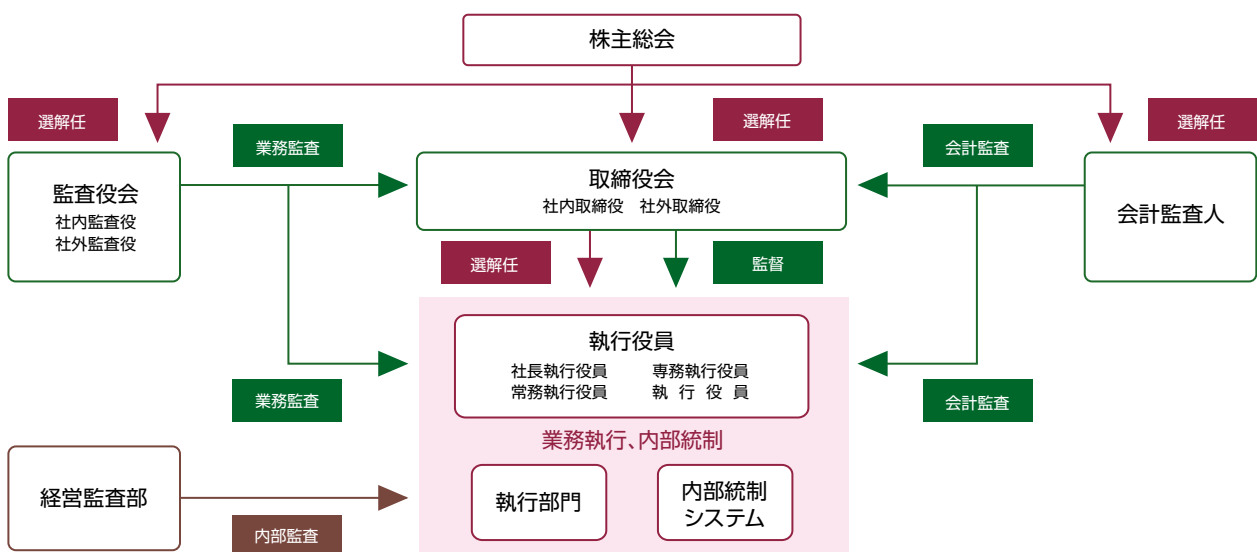
## 内部監査

内部監査部門である経営監査部が、リスク・コンプライアンス体制、内部統制システムなどの有効性について監査を実施し、評価と提言を行っています。また、環境管理、情報セキュリティ、安全保障輸出管理などの各種監査は、それぞれの統括部門が経営監査部と連携して実施しています。

### 内部監査の主な担当部門と内容一覧

担当部門	内容
経営監査部	経営監査、業務監査、コンプライアンス監査など
生産企画部 環境経営推進室	環境マネジメントと環境管理上の実績について
IT戦略システム部	情報セキュリティおよび情報システムの管理体制について
輸出管理部	安全保障輸出管理について

## コーポレート・ガバナンスの体制



# CSR推進体制

CSRを経営の中核に位置づけた事業運営を実践しています。

## CSRマネジメント

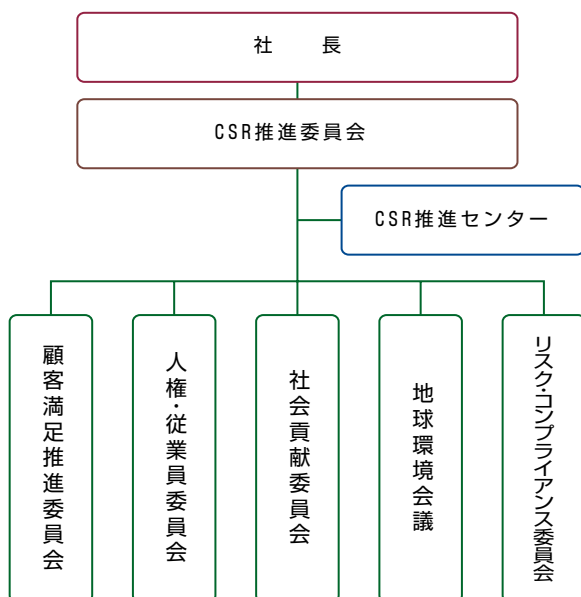
東芝テックグループでは、CSRについてステークホルダーの期待・要望に対応し、企業の義務や責任という領域を越え、東芝テックグループが社会に対して積極的に貢献し、持続可能な社会を実現することによって、企業として継続的に発展していくためのベースとなるものと考えています。

東芝テックでは、CSRを企業経営の中にしっかりと位置づけるため、CSR推進センターを中心に、法令・企業倫理を遵守する「コンプライアンス」を前提とした、「顧客満足」、「人権・従業員」、「社会貢献」、「地球環境」といったCSR関連諸活動を体系化し、推進体制を整備しています。

具体的には、社長を委員長としたCSR推進委員会を設置し、この委員会においてCSR推進活動の基本方針、基本計画などの重要事項の立案、方向づけを行っています。また、CSR推進委員会の傘下に、顧客満足、人権・従業員、社会貢献、地球環境、リスク・コンプライアンスなど各活動の委員会を配置し、それぞれが活動方針や活動計画を策定・実行しています。

そして、法令や企業倫理を守り、誠実で透明な経営であること、地球環境に配慮すること、地域社会に貢献することの積み重ねが、企業の継続的発展の前提であると考えています。

### CSR推進体制



## 東芝テックグループ行動基準

東芝テックグループの経営理念は、グローバルに事業活動を展開するにあたり、法令を遵守し、社会規範・企業倫理に則って行動するとともに、顧客満足、人権尊重、社会貢献、地球環境保全などについて、企業の社会的責任(CSR)を果たすことを基本方針としています。これらの基本方針を実現するために、東芝テックグループのすべての役員・従業員が共有する価値観と行動規範を明確化した「東芝テックグループ行動基準」を定めています。

行動基準は、東芝テックグループが社会に貢献し、社会からの信頼と尊敬を得るための行動指針として、東芝テックグループ全員が日々の活動の中で実践しています。

「東芝テックグループ行動基準」は、13カ国語(英語、ドイツ語、フランス語、中国語、オランダ語、スペイン語、ポルトガル語、スウェーデン語、イタリア語、ポーランド語、韓国語、マレー語、インドネシア語)に翻訳され、海外の東芝テックグループ約60社で採択され、それぞれの会社の行動基準として実践されています。

WEB 東芝テックグループ行動基準の全文は、ウェブサイトでご覧いただけます。

URL <http://www.toshibatec.co.jp/company/actionj.html>

### 東芝テックグループ行動基準

#### 第1章 事業活動に関する行動基準

1. お客様の尊重
2. 生産・技術活動および品質活動
3. 営業活動
4. 調達活動
5. 環境活動
6. 輸出管理
7. 独占禁止法等の遵守
8. 官公庁との取引
9. 不適正な支出の禁止
10. 技術者倫理の遵守
11. 知的財産権の尊重
12. 適正な会計
13. 広報活動
14. 広告活動

#### 第2章 会社と個人に関する行動基準

15. 人間の尊重
16. 会社情報・会社財産の保護

#### 第3章 会社と社会との関係に関する行動基準

17. 社会との係わり
18. 政治寄付等



# コンプライアンス

高い倫理感と、遵法の精神を醸成することにより、不祥事を防止。また、万一の発生時にも適切かつ迅速な行動で対応します。

## リスク・コンプライアスマネジメント

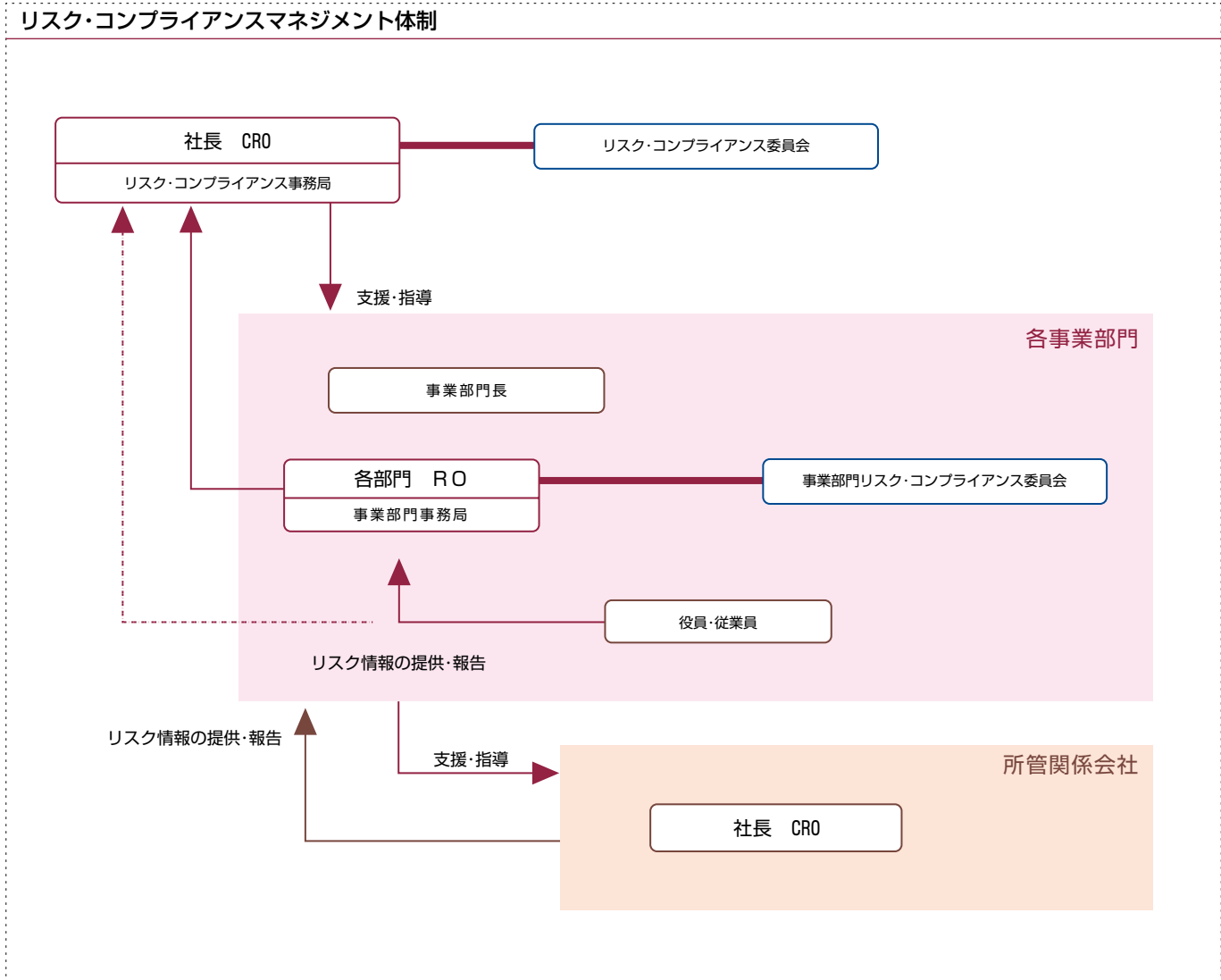
東芝テックグループでは、「東芝テックグループ行動基準」の浸透・徹底やリスクマネジメント施策を推進するため、各社社長をCRO\*1に任命し、トップが率先して各種施策の立案・推進、緊急事態への対応などを行っています。

東芝テックでは、CROを委員長とするリスク・コンプライアンス委員会\*2を開催し、東芝テック施策に加え、東芝テックグループ全体の体制整備、リスク・コンプライアンス対応の高度化に係る施策の立案・推進を行っています。

また、従業員がリスク・コンプライアンス情報を積極的に提供・報告することができるよう、「CRO」や「社外弁護士」に直接通報する

「内部通報制度」を導入・運用しています。また、取引先からも通報できるよう、「東芝テックパートナーホットライン」(お取引先様通報制度)を当社ウェブサイト上に開設しています。

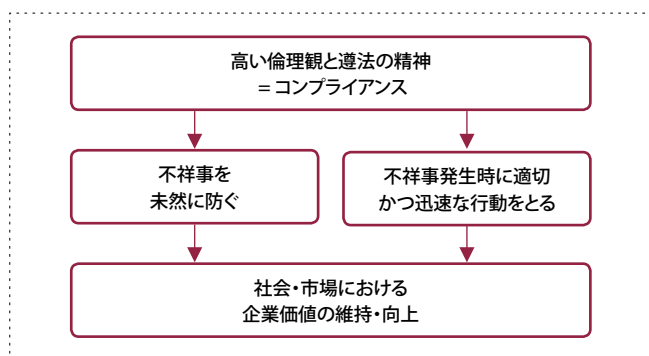
- \*1: CRO (Chief Risk-Compliance Management Officer 「リスク・コンプライアンス統括責任者」)
- \*2: リスク・コンプライアンス委員会:リスク・コンプライアンスに関する全社重点施策の策定・統括を行い、リスク・コンプライアンス体制の維持管理を強化推進しています。



## コンプライアンス教育

東芝テックグループでは、遵法の精神やコンプライアンス意識の醸成を図るため、定期的に各種コンプライアンス教育を行っています。グローバルな事業展開に対応するため、海外で勤務する従業員への教育にも力を入れています。海外のグループ会社においては、地域の特性などを考慮したコンプライアンス教育を実施しています。

また、このほかに「情報セキュリティ」、「個人情報保護」、「輸出管理プログラム」、「環境教育」についても、従業員一人ひとりに教育を実施しています。



### ■コンプライアンス教育の例

- ・東芝テックグループ行動基準教育
- ・営業リスク・コンプライアンス教育
- ・海外赴任者・長期出張者向け教育
- ・技術者倫理教育
- ・米国弁護士によるPLセミナー
- ・中国法務セミナー



## 情報セキュリティ

### 1) 情報セキュリティの取り組み

東芝テックでは、社会環境の変化に対応して、情報セキュリティに関する規程類の見直しや各部門での自主監査など継続的な改善活動を行っています。

また、情報を取り扱う上での事故防止、情報セキュリティを確保するためのルールの学習にeラーニングなどを活用して、役員・従業員および協力会社の派遣者を含めた教育を継続して実施しています。

東芝テックグループ各社においても、同様な施策を展開しており、グループ一丸となって情報セキュリティの維持、向上に取り組んでいます。

### 2) 情報セキュリティ対策

インターネットと社内ネットワークとの間にファイアウォールを設置して、インターネットから社内ネットワークへの不正侵入、また情報の漏洩を防止しています。

従業員が外出先から社内ネットワークを利用する場合には、セキュ

リティシステムによる従業員の認証を行い、社外からの不正侵入を防止しています。

コンピュータウイルス対策では、インターネットメールに組み込まれたウイルスを入口で検知するシステムを導入しています。また、各クライアントパソコンにはコンピュータウイルス検査・駆除ソフトを組み込み、ウイルスの最新情報を常にチェックし、感染を未然に防止できるよう万全を期しております。

重要な情報や情報システムは、社外の安全なデータセンターに設置したサーバで管理し、災害などのリスク対策を講じています。さらに、利用できる情報の制限および利用記録の管理、個人情報等の機密情報の暗号化対策など、セキュリティの強化を図っています。

## 個人情報保護

東芝テックグループでは関連法令を遵守し、個人情報の漏洩防止に万全を期すために、個人情報の管理体制や適切な取り扱い方法などを定めた各種社内規程を制定するとともに、従業員教育、携帯用電子機器などの物理的管理措置を強化するなど、個人情報保護の徹底に努めています。

具体的には、「個人情報保護方針」をウェブサイトなどで公開するとともに、個人情報の取り扱いや社内の管理体制を定めた「個人情報保護プログラム」を制定しています。

さらに、この個人情報保護プログラムをわかりやすく解説したハンドブックを全従業員に配布するとともに、全従業員一人ひとりが個人情報保護に対する感度を高め、事業活動を展開するにあたり個人情報保護を徹底するよう、全従業員に対する教育を実施しています。

## 安全保障輸出管理

近年、国際社会において安全保障を脅かすおそれのある国・地域やテロリストへの大量破壊兵器、および通常兵器等の拡散防止が重要な課題となっています。

東芝テックグループでは、「事業活動を行う国や地域の輸出管理に関する法令、および米国原産品・技術の取引を行う場合は米国の輸出管理に関する法令を遵守する」「国際的な平和と安全の維持を阻害するおそれのある取引引きに関与しない」を輸出管理の基本方針としています。

この方針に沿ってグループ各社では「輸出管理プログラム」を策定し、輸出管理体制を構築。厳格な貨物・技術の該非判定や、取引審査、輸出管理監査、および全役員・従業員への教育、所管グループ会社に対する指導・支援などを実施しています。

# 安全で高品質な商品をご提供するために

お客様の視点に徹し、安全で高品質な商品をご提供するために全従業員が徹底した品質保証活動に取り組んでいます。

## 全社一丸の品質保証体制

東芝テックは、お客様の声をすべての発想の原点として、安全で安心してご使用いただける商品、システム、サービスを提供しております。

2007年6月より、品質責任をこれまで以上に明確化し、品質保証体制を強化するために、「品質統括責任者」を設けました。「品質統括責任者」は、製品の開発・生産から廃棄までのライフサイクルにわたって品質と製品安全を厳しく監督しています。

製品には万全を期しておりますが、万一、製品事故が発生した場合においても、経営トップが速やかに対応を判断し、迅速かつ真摯に対応するとともに、お客様に適切な品質情報をご提供できる体制を備えています。

経営トップの強い意志のもと、商品企画・設計・調達・製造・販売・サービスなど全部門・全領域で、従業員一人ひとりが徹底した品質保証活動に取り組んでいます。

## お客様の安全を最優先に

東芝テックは、お客様に安全な製品をご提供することを最優先に考えます。

製品のライフサイクルにおける各段階で機能と信頼性を評価し、

設計審査(デザインレビュー)を実施して品質を確保しています。特に製品安全に関する評価を別出しして、厳重な審査・認定を実施しています。

製品安全に関する各種法令を遵守することはもちろん、さらに厳しい自社基準を定め設計・評価を行い製品をご提供しています。

また、正しい使用方法や長期間使用される際のご注意など、取扱説明書やウェブサイト、サービスエンジニアの訪問説明など情報提供に注力しています。

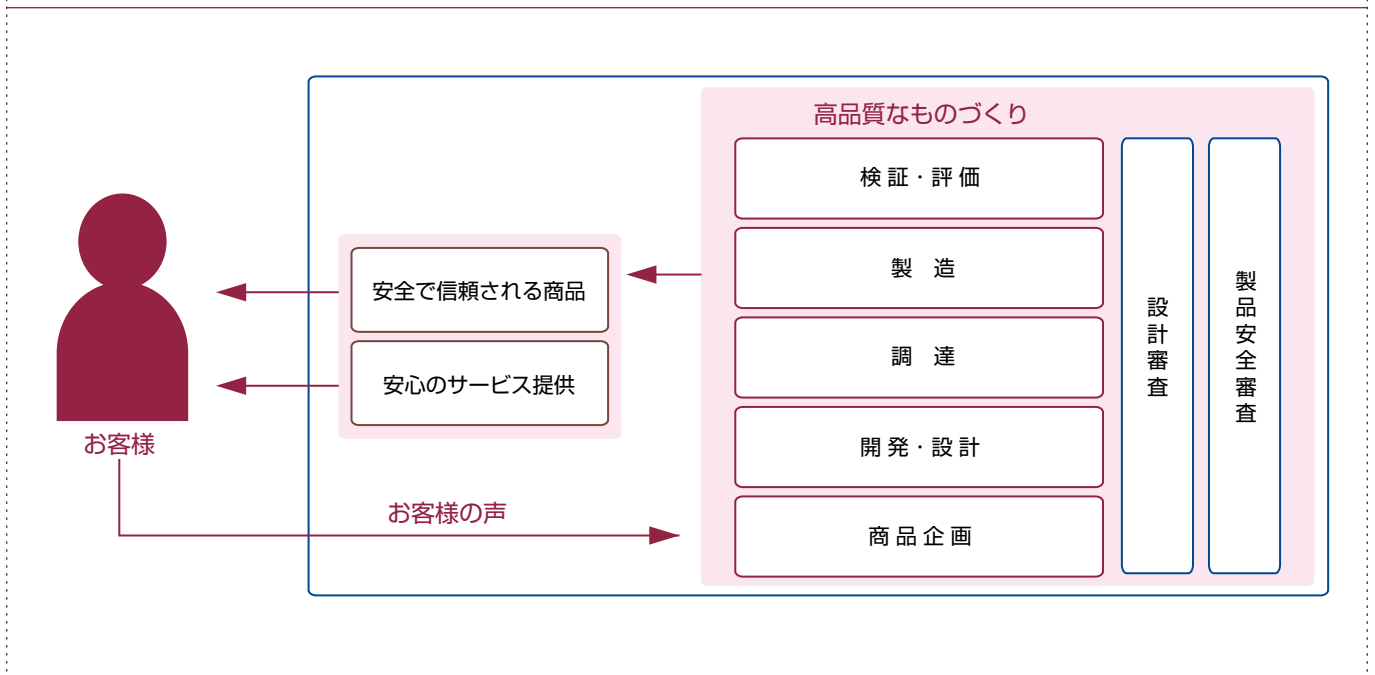
## 高品質な製品をご提供し続けるために

お客様に高品質な製品をご提供し続けるためには、新入社員からベテランまですべての従業員が、常に品質と製品安全への高い意識を持ち続けることが重要です。

東芝テックでは、技術法令遵守を徹底する活動、シックス・シグマによる品質イノベーション活動、製品安全・信頼性の専門技術者の育成など従業員の品質意識の向上に注力しています。

2007年度は技術者を対象に「トータルクオリティセミナー」、「電気用品安全法教育」などを実施しました。

## お客様満足度向上のための取り組み





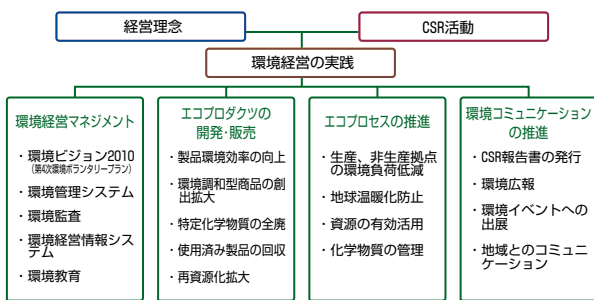
# 経営理念とCSR活動のもとで環境経営を実践

かけがえのない地球環境を健全な状態で次世代へ引き継いでいくため、すべての事業活動において環境への配慮を優先したモノづくりを通して地球社会の発展に貢献します。

## 環境経営の実践

東芝テックグループは、経営理念とCSR活動に基づいて環境経営を実践しています。環境経営の重要な柱として、「環境経営マネジメント」、「エコプロダクツの開発・販売」、「エコプロセスの推進」、そして「環境コミュニケーションの推進」を掲げ、環境対応に積極的に取り組んでいます。

### 東芝テックグループの環境経営



## 環境経営マネジメント

東芝テックグループでは、東芝グループの一員として2007年11月に発表された東芝グループ「環境ビジョン2050」を達成するため、具体的な目標として「第4次環境ボランタリープラン」を制定して2050年の地球環境の保全に向けた継続的な環境改善活動をしています。

## エコプロダクツの開発・販売

お客様に環境への影響が少なく、価値の高い商品を提供するための評価指標として「製品環境効率」の考えを取り入れ、環境調和型商品を開発・販売しています。お客様や社会の新しい豊かさのために、価値も、環境影響も、優れた「製品環境効率」の商品を提供することで持続可能な社会を作ることが大切と考えます。

また、東芝テックでは、使用済み製品の回収リサイクルシステムを全国に拠点を設けて積極的に取り組み、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進による循環型社会の形成に貢献しています。

## エコプロセスの推進

京都議定書の第一約束期間（2008～2010年）がスタートし、また洞爺湖サミットが開催されることから、地球温暖化防止への関心はますます高まっています。東芝テックでは、京都議定書の目標の達成のため、CO<sub>2</sub>削減を始め、省資源、化学物質の管理とともに環境負荷の少ない生産拠点作りを国内・海外で進めています。

## 環境コミュニケーションの推進

ステークホルダーの皆様にご覧いただくウェブサイトやパンフレットを通して適切な環境情報をお伝えし、ご意見やご要望をお聞きする環境コミュニケーションを重要な取り組みとして位置づけております。

社員の一人ひとりが、社会や家庭においても環境に関心を持つ「環境マインド」を向上させ、環境経営を実践しています。

### 環境基本方針

東芝テックグループはリテール ソリューション、ドキュメントシステムなどの事業をグローバルに展開し、環境に配慮したモノづくりを通して地球社会の発展に貢献します。

かけがえのない地球環境を健全な状態で次世代に引き継いでいくために、すべての事業活動において環境への配慮を優先し、「私たちの約束」である経営理念と、企業の社会的責任に基づいてグループ・グローバルの環境経営を実践します。

- (1) 環境経営の重要な柱として、「環境経営マネジメント」、「エコプロダクツの開発・販売」、「エコプロセスの推進」、「環境コミュニケーションの推進」を掲げ、環境対応に積極的に取り組む。
- (2) 「環境経営マネジメント」
  - ・ 事業活動、製品、サービスに関わる環境的側面について、環境負荷の低減、汚染防止などに関する環境目的および環境目標を設定・推進し、継続的な改善・向上を図る。
  - ・ 世界の国／地域に適用される環境に関する法律・条令、およびその他東芝テックグループとして受け入れを決めた事項などを順守する。
- (3) 「エコプロダクツの開発・販売」
  - ・ 環境調和型商品提供のため、環境に配慮した材料・部品のグリーン調達および省資源、省エネルギー、特定化学物質全廃設計を推進する。
  - ・ 環境調和型商品の販売を促進する。
  - ・ 使用済み製品の回収・リサイクルや部品の再使用などで、循環型社会構築に貢献する。
- (4) 「エコプロセスの推進」
  - ・ 省資源、省エネルギー、化学物質の適正管理に取り組み、環境配慮生産をおこなう。
  - ・ 環境に配慮した文房具・OA機器などのグリーン購入を推進する。
- (5) 「環境コミュニケーションの推進」
  - ・ 社員一人ひとりが環境活動を推進できるように、環境教育・啓蒙活動を展開し、環境マインドを高める。
  - ・ 環境方針、環境活動について広く社内外へ積極的に公開する。
  - ・ 行政、地域、関係団体などと協調し、社会全体の環境活動に参画・協力する。

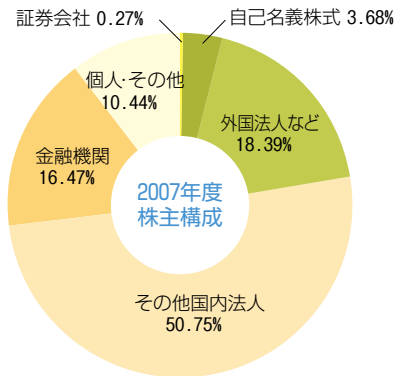
東芝テックグループ  
2008年4月改訂

# 株主・投資家と東芝テック

さまざまな機会を通じ、株主・投資家の方々に東芝テックを正しくご理解いただき、信頼を得られるよう努めています。

## 株主構成

東芝テックの総株主数は、2008年3月末現在で約1万5千名です。所有者別の株式分布状況では、個人・その他が10.44%、金融機関が16.47%、その他国内法人が50.75%、外国法人などが18.39%、証券会社が0.27%、自己名義株式が3.68%となっています。



## 株主とのコミュニケーション

東芝テックは、株主総会が株主との直接のコミュニケーションの場として重要であると認識しています。

株主総会では、事業概況や中期経営計画をビジュアル化して報告するとともに、終了後にショールーム見学会を実施して、出席された株主に、よりわかりやすく、より深く「東芝テック」を理解いただけるよう、努めています。

一方、ビジネスレポートを作成し、これをすべての株主に送付するとともに、ウェブサイトに掲示することで、株主や投資家にできる限り「東芝テック」を理解いただけるよう努めています。ビジネスレポートは事業概況のほか、主な商品、業績予想、中期経営計画を始めとした情報を、図表や写真を活用してわかりやすく作成しています。



ビジネスレポート

## IRフェア

東芝テックでは投資家とのコミュニケーションにも積極的に取り組んでいます。

毎年東京ビッグサイト(東京都江東区)において開催される日本経済新聞社主催の個人投資家向けIRフェアに出展し、個人投資家とのコミュニケーションを図っています。

2007年8月31日・9月1日の2日間に亘って開催されたIRフェアには上場会社約100社が出展し、各界の著名人の講演会も併催されるなど個人投資家の注目を集め、残暑の中、2日間で約15,000人の方が来場されました。

当日来場された個人投資家の方々は、各社の展示ブースにて会社の説明受け、また講演会を聴講されたりと、企業を知る絶好の機会となりました。

東芝テックブースでは、訪問いただいた個人投資家の方々に当社業績や中期経営計画を中心にお話をさせていただくとともに、関係資料の配布を行い、当社を理解していただくことに努めました。また、投資対象として興味を持たれた投資家の方には、個別会社説明会に参加いただき、当社株の有望性について説明いたしました。



IRフェア



## 情報開示

東芝テックは、株主をはじめ投資家や地域社会などさまざまなステークホルダーの皆様に、東芝テックを正しく理解いただき信頼を得られるよう、経営方針、決算情報、財務情報など企業情報の適時・適切な開示に努めています。

具体的には、重要な会社情報が生じる都度、法令・社内規程などに基づいて、迅速・正確・公平な情報開示を行うほか、機関投資家・証券アナリストなどを対象とした決算説明会(年2回)、社長による中期経営計画説明会(年1回)をそれぞれ開催しています。

### 2007年度 年間コミュニケーションスケジュール

月	コミュニケーション内容
4月	決算発表(決算短信公表) 決算説明会
5月	中期経営計画説明会
6月	株主総会招集通知発表 ビジネスレポート発送 決議通知発送 有価証券報告書開示 CSR報告書発行
7月	第1四半期業績公表
10月	中間決算発表(中間決算短信公表) 中間決算説明会
12月	中間ビジネスレポート発送
1月	第3四半期業績公表



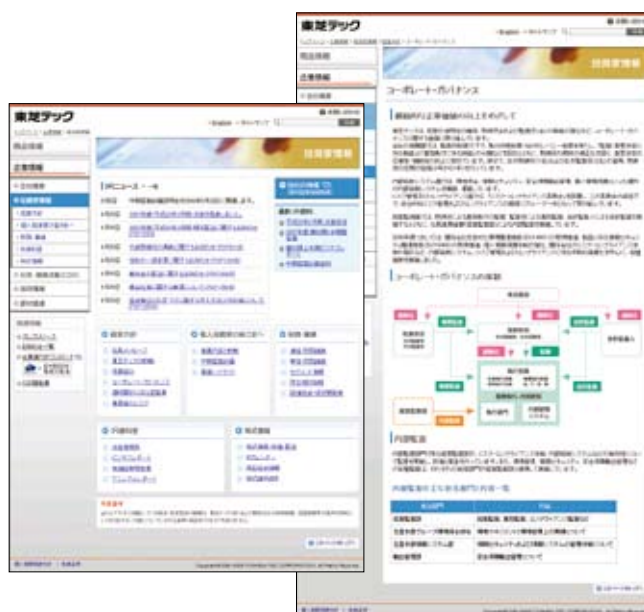
中期経営計画説明会



決算説明会

また、東芝テックウェブサイトにおいても、事業運営上の開示情報をわかりやすく速やかに掲載することに努めています。

インサイダー取引を防止するための厳格な情報管理を行っています。



WEB  東芝テックウェブサイト  
(株主投資家情報) URL  
<http://www.toshibatec.co.jp/investor/indexj.html>



# お客様と東芝テック

お客様の立場に立って考え、行動し、お客様が納得して喜んでいただける商品やサービスを提供することを第一に事業活動を行っています。

## ＜お客様＞・・・お客様の声を大切にします

東芝テックグループの経営理念には、『私たちは、お客様にとっての価値創造を原点に発想し、世界のベストパートナーと共に、優れた独自技術により、確かな品質・性能と高い利便性をもつ商品・サービスをタイムリーに提供します。』と制定されています。

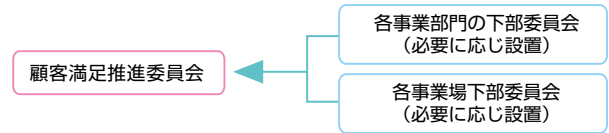
この私たちの目指す姿を実現するために、従業員一人ひとりが、お客様は何を求めているのか、お客様にとっての価値は何かを、つねにお客様の立場にたって考え行動することにより、お客様が納得し、お客様に喜んでいただける商品やサービスを提供することを第一に事業活動を行っています。

## お客様満足度向上のための方針

東芝テックグループでは、2003年に策定された「東芝グループCS推進方針」に基づき、お客様にご満足いただける製品、システム、サービスの提供や、お客様とのコミュニケーションを通じて、お客様満足の向上をめざしています。

注) CS:お客様満足(Customer Satisfaction)

## 顧客満足推進委員会

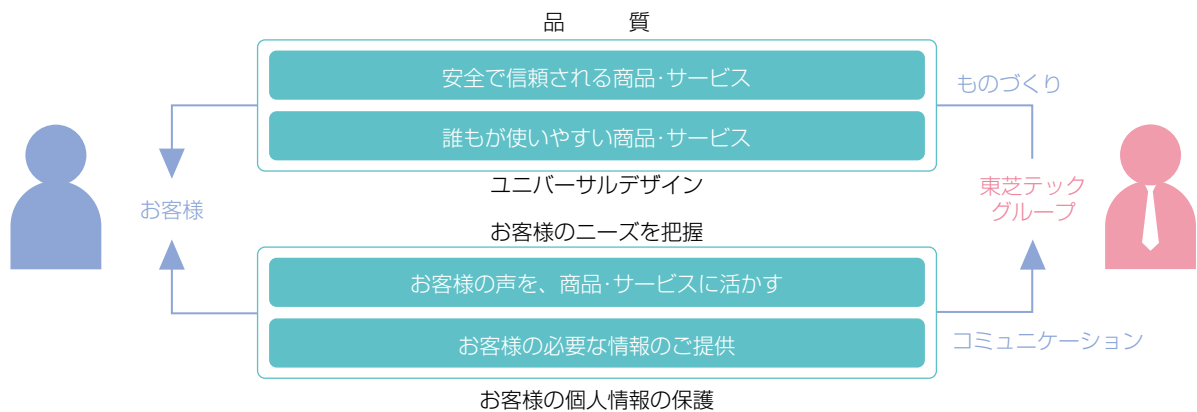


## 東芝グループCS推進方針

東芝は、お客様の声を全ての発想の原点とし、お客様にご満足いただける製品、システム、サービスをご提供します。

- (1) 安全で信頼される製品、システム、サービスを提供します。
- (2) お客様からのご要望、ご相談に誠実、迅速、かつ的確にお応えします。
- (3) お客様からの声を大切に、お客様にご満足いただける製品、システム、サービスの開発、改善を実現するよう努力します。
- (4) お客様に、製品等に関する情報提供を適切に行います。
- (5) お寄せいただいたお客様の個人情報を保護します。

## お客様満足度向上のための取り組み



## 関係会社との連携

東芝テックグループでリテールソリューション機器の保守サービスを担当しているテックエンジニアリング(株)、およびドキュメントシステム機器の販売・保守サービスを担当している東芝テックビジネスソリューション(株)と連携して情報の共有化を図り、お客様の満足につながるよう改善活動を実施しています。

## (株)東芝との連携

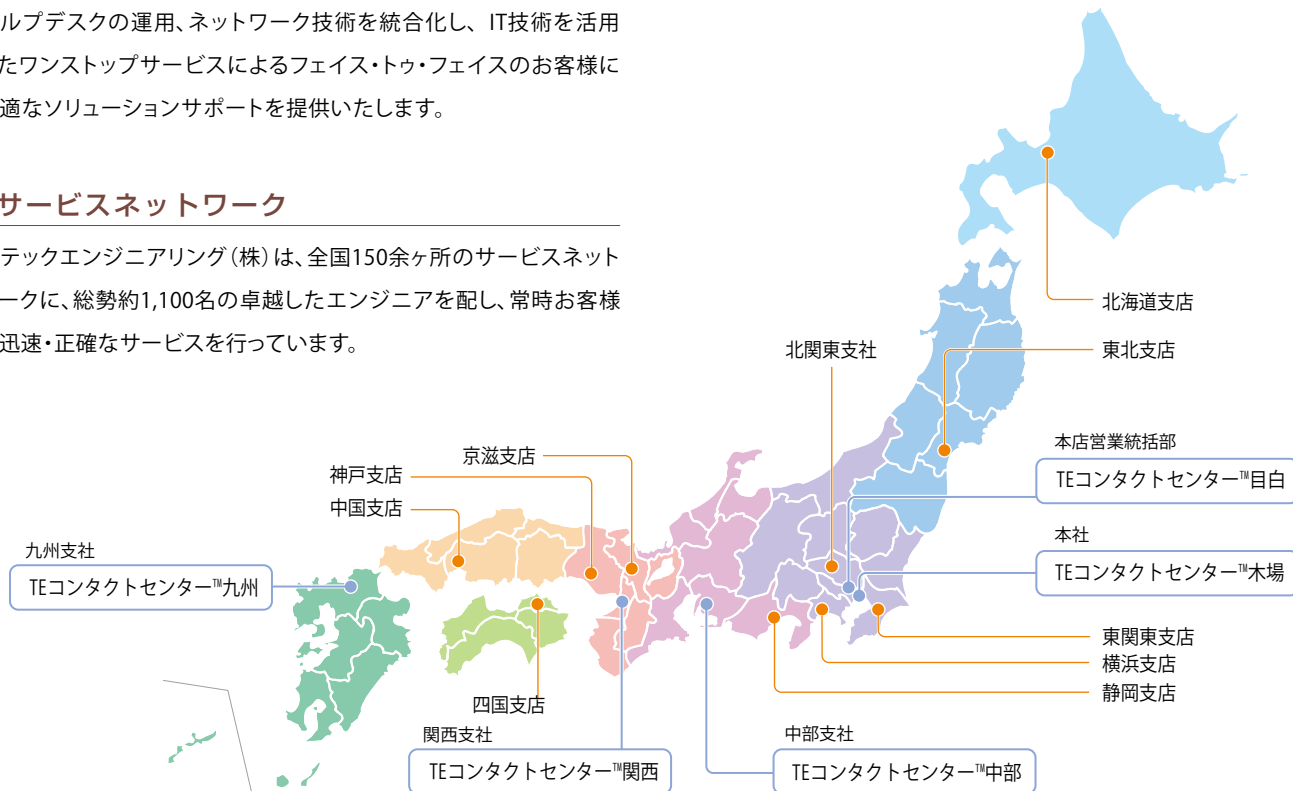
東芝総合ご案内センターおよびCS推進センターと定期的に情報交換することにより、東芝グループの対応・サポートの品質向上に取り組んでいます。

## コンタクトセンター™

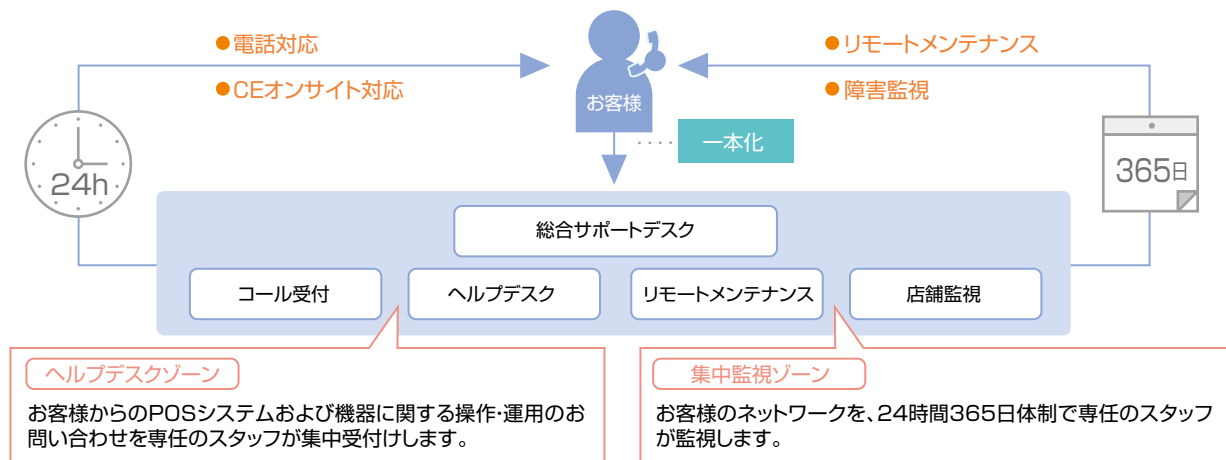
テックエンジニアリング(株)のTEコンタクトセンター™は、POSからネットワークコンピューティングに至るまで、お客様に距離を感じさせない迅速なソリューションサポートを提供いたします。ヘルプデスクの運用、ネットワーク技術を統合化し、IT技術を活用したワンストップサービスによるフェイス・トゥ・フェイスのお客様に最適なソリューションサポートを提供いたします。

## サービスネットワーク

テックエンジニアリング(株)は、全国150余ヶ所のサービスネットワークに、総勢約1,100名の卓越したエンジニアを配し、常時お客様に迅速・正確なサービスを行っています。



## 総合サポートルーチン



# 従業員と東芝テック

全従業員一人ひとりを尊重し、適切な評価・処遇を実践しています。また、安全健康管理を経営の最重要課題として位置づけています。

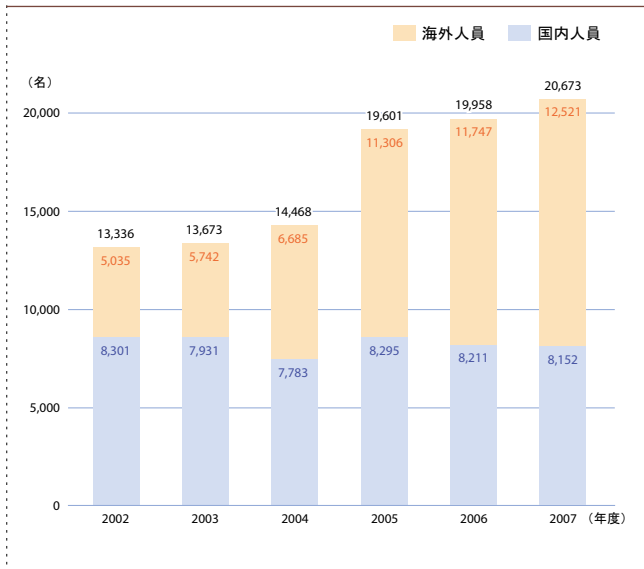
## 人事基本方針

東芝テックグループでは、全従業員一人ひとりを尊重し、それぞれの能力向上に努めています。また、公正で適切な評価・処遇を実践するとともに、自由闊達で健全な組織風土と、仕事と家庭の両立支援への取り組みなど、意欲ある従業員にいきいきと働く環境を整え、挑戦し続ける強いプロ集団をつくることを基本方針として、すべての人事処遇制度を構築しています。

## 従業員数

ドキュメントシステム事業の直系販売網の強化、海外におけるリテールソリューション事業の強化、中国（深圳）への生産移管の加速により、2007年度末総従業員数は前年度に比し、715名増加し、20,673名となりました。

従業員数の推移(各年度末現在)



## 人事制度

東芝テックでは、全従業員が「働きがい」「やりがい」を感じ、仕事を通じて自己実現を図るとともに、各自の成果が組織の成果と結びつくことで、適切な処遇を実践することを人事制度の基本としています。

また、一人ひとりが高い専門性を持つプロとして自立する一方で、組織力を発揮できるプロ集団とするべく、自由闊達で健全な組織風土作りに注力しています。

## ■人材活用・育成制度

1) 目標チャレンジ制度	組織目標をブレイクダウンした従業員ごとの目標を設定し、個人の目標達成を組織の目標達成につなげることで、成果に基づいた処遇を実現します。
2) 専門能力評価制度	従業員の専門性を評価し、業務遂行過程に顕在化した専門能力に基づいた処遇を実現します。
3) 役割等級制度	能力を発揮する「場」のレベルの違いによる役割等級を設定し、役割に基づく責任の大きさや難易度などの違いにより、業務に基づいた処遇を実現します。
4) 社内公募の活用	事業重点分野への人材配置の促進と従業員の意欲・希望を実現する機会を設けることで社内での人材活用を促進しています。
5) 雇用延長制度	少子高齢化が急速に進展していることを踏まえ、高齢者の専門性を高め、さらなる積極的な活用を図るため、2002年度から雇用延長制度を導入し、高齢者の豊富な経験・知識を活用しています。

## ■男女共同参画・次世代育成支援への取り組み

従来から性別に係わりなく、意欲のある従業員を育成・活用し、いきいきと働くことができる環境を整え、今後も男女共同参画の趣旨を活かした環境整備に取り組んでいきます。仕事と家庭の両立を支援する仕組みの一端として、下表の制度を設け実施しています。

## ■次世代育成支援制度

1) 育児休職	子が満3才に達する月の月末まで。
2) 看護休暇	小学校第3学年修了前の子1人につき1年度に5日。また、小学校第4学年以上18歳未満の子を対象に1年度に5日。その他家族についても、さらに1年度に5日。
3) 短時間勤務	育児を目的とする場合：子が小学校第3学年修了する年の3月末日まで。介護を目的とする場合：被介護者1人につき制度適用を開始した日から3年まで。
4) 年次有給休暇を1時間単位での取得	育児、介護、看護、妊娠による通院又は治療の事由に対して、当年度付与日数のうち20日を越える部分、及び前年度から繰り越された年次有給休暇のうち20日を越える部分の合計日数を限度として、1時間単位でこれを受け取ることができる。
5) 妊娠保護休暇	妊娠した女性が妊娠に起因する障害のため通院、治療を必要とする等就業が著しく困難なとき、妊娠中及び妊娠4箇月未満の流産後8週間の期間において、14日。



## 障がい者雇用について

東芝テックでは、障がい者と健常者が分け隔てなくともに働ける環境作りをめざしており、障がいを持つ従業員がさまざまな業務を行っています。インターネットでの募集や各種フォーラムなどを通じて、積極的な採用を進めるとともに、職場環境の整備を進め、障がい者の活躍の場をいっそう広げてまいります。

### TOPICS

- ・聴覚障がい者とのコミュニケーションセミナーの開催
- ・TEC Sign Club（手話教室）

## 教育研修制度

教育研修制度は、本人の自由な意志を尊重しながら高度な専門能力を習得するための研修や、コンプライアンス教育などの全従業員一人ひとりに対する周知啓蒙を図る研修、会社生活におけるステージ毎に行われる階層別研修などから成り立っています。個々人のニーズや業務ニーズに応じた多彩な研修を実施しています。

### ■階層別教育

新入社員への各種導入教育にはじまり、新任主任・主務層には財務諸表をベースにした経営に関する基本知識のマスターを主眼とした集合研修、一定期間後にマネージャーとしての役割の理解と課題達成のためのスキル習得を目的とした集合研修を実施しています。

課長層には新任者を対象に、コンプライアンス、企業会計をはじめとした管理のための基礎知識、および一定期間後にコーチングなどのヒューマンスキル向上のための集合研修を実施しています。

さらに部長層には、経営者のセンスで戦略立案を行うためのコンセプトチュアルスキル向上を目的とした集合研修、派遣教育を実施しています。

### ■キャリアデザイン教育

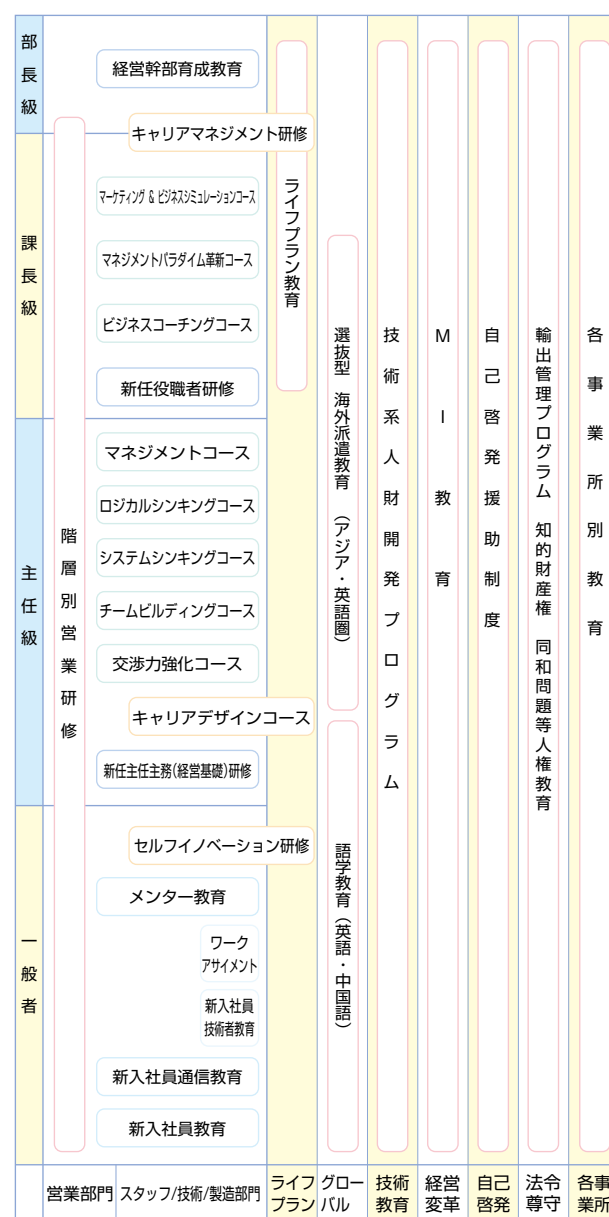
「自律」の必要性を自覚し、自分の将来を自分で創造し、自分自身を革新し、自らの選択を自分で実現させていくという能力を、一人ひとりが開発していくことを目的として、20代、30代、40代の年代毎

にキャリアデザイン研修を実施しています。

### ■グローバル人材育成制度

現在のビジネス環境は、日本の枠を越えた国際舞台で活躍できる人材の必要性が高まっています。東芝テックでは若手から中堅社員層を対象にグローバル人材育成制度を設け、語学のみならず、国際的に通用する実務知識、教養、センスを兼ね備えた人材の育成を計画的に実施しています。

## 教育体系



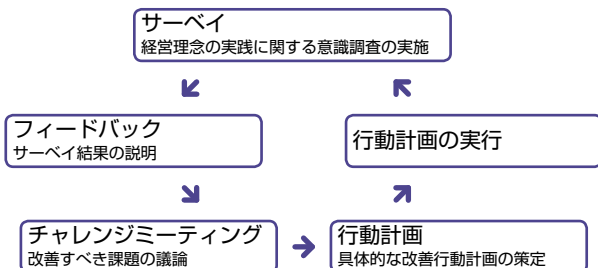
## 経営理念サーベイ

東芝テックグループ経営理念“私たちの約束”は、東芝テックグループ全員が持つべき共通の価値観であり、すべてのステークホルダーに対する約束です。この経営理念に基づいて事業活動や経営を実践することにより、持続可能な社会を実現し、社会とともに東芝テックグループも継続して発展していきたいと考えています。そのためには、経営理念に基づく“私たちが目指す姿”と現状とのギャップを明確にし、理念経営を確実に理解しながら実践することが大切です。そこで2007年の経営理念制定と同時に、全従業員を対象に、経営理念が各職場や従業員ひとり一人の行動に具体的に活かされているかの意識調査「経営理念サーベイ」を実施しています。この調査結果に基づいて、それぞれの職場で独自の改善施策を実施することにより、経営理念を従業員ひとり一人に浸透させ、経営理念に基づいた業務活動ができるよう取り組んでいます。



2007年度に実施した当社および、国内関係会社12社を対象としたサーベイでは、99.7%という非常に高い実施率となりました。集まったアンケートを集計、さまざまな角度から分析をしたのち、全従業員へのフィードバックを行いました。従業員はその分析結果をもとにチャレンジミーティングを通して従業員同士の意見交換会を行い、来年度に向けた改善計画案を作成し、それを実行するというPDCAサイクル<sup>\*</sup>を回しています。

\*PDCAサイクル



## 経営理念推進委員会



東芝テックグループでは、各部門および関係会社から理念推進委員を選出し、「経営理念」の重要性の認識、経営理念サーベイの円滑な実施、ならびにPDCAサイクルの実行のため、年2回の理念推進委員会を開催しています。2007年は、サーベイの結果レビュー、これまで4年間の傾向のサマリー、および海外結果との比較による国内グループ企業の課題、そして理念経営におけるサーベイとチャ

レンジミーティングの重要性について全委員に説明しました。さらに本年は新しい試みとして外部の方による基調講演も開催し、理念推進委員の啓蒙に努めました。

その他にも従業員向けに「CSR掲示板」を設け、サーベイの実施時期や、理念推進委員会の報告、結果データなどを掲載し、周知啓蒙を図っています。経営理念サーベイのほか、社会貢献活動報告や環境ニュースのページも設けています。



CSR掲示板

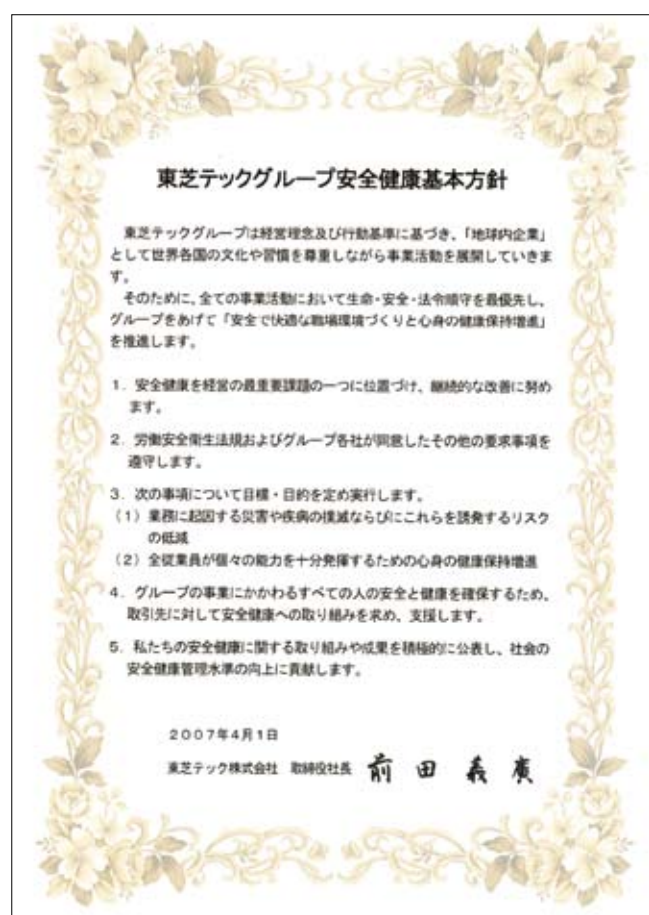
## 労使関係

東芝テックと労働組合の間には、労使の憲法ともいべき労働協約が締結され、“会社の発展が組合員の経済的地位の向上を促し、組合員の地位の向上が会社の発展の礎となる”という共存の理念が確認されています。こうした理念のもと、さまざまな経営課題について労使で率直に話し合い、対応の方向性を検討し、相互理解を深めながら労使の力を結集し、生産性向上に取り組んでいます。

## 安全健康への取り組み

### ■ トップの安全健康基本方針表明

安全と健康を経営の最重要課題と位置づけた安全健康基本方針はグループ会社を含め徹底し、生命・安全・法令遵守を最優先にした取り組みをしています。



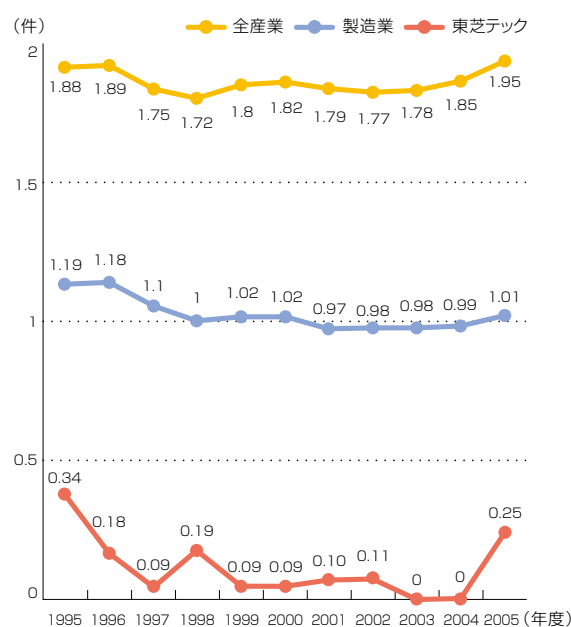
### ■ OHSAS18001 認証取得

2008年3月に労働災害のリスクを減少させるOHSAS18001の認証を三島事業所が取得しました。大仁事業所、東芝テック深圳社も認証取得の取り組みを進めています。

### ■ 労働災害の防止

経営トップによる安全健康巡視や安全衛生委員などによる職場安全健康パトロールを定期的実施するなど災害防止活動をしています。労働災害発生率は全国の全産業、製造業と比較して低い水準にありますが、より高い水準の安全健康活動を推進していきます。

### 休業災害発生率(100万時間当たり)



### ■ 健康管理の充実

定期健診結果を通じて生活習慣病の予防・改善をめざした指導を行っています。長時間勤務者には産業医との面接、検診による健康管理を行っています。

メンタルヘルス対策では研修会をはじめ、「心の健康」の保持・増進に努めています。また、長期休業者の円滑な職場復帰の取り組みを行っています。



# 東芝テックにおけるCSR調達への推進

公正かつオープンな取引を通じた調達取引先との相互信頼関係の構築に取り組むとともに、法令遵守や人権、環境への配慮を重視する企業との優先取引を進めています。

## 調達方針

東芝グループが広範な商品群をグローバルに事業展開する中で、公正な調達活動を通じて社会的責任を果たすために、東芝テックは東芝グループの一員として、調達活動における「基本方針」、「調達取引先様の選定方針」を設定し、公表すると共に、方針に沿った調達活動の徹底に努めています。

### 調達方針

#### ■ 調達の基本方針

- (1) 関連法令の遵守と環境への配慮
- (2) 公正かつオープンな取引の推進
- (3) 調達取引先様とのパートナー関係強化

#### ■ 調達取引先様の選定方針

- (1) 法令を遵守し、環境への配慮を重視していること。
- (2) 経営状態が健全であること。
- (3) 東芝グループに供給する資材・役務の品質、価格、納期が適正水準にあること。
- (4) 安定供給能力と、需給変動への柔軟な対応力があること。
- (5) 東芝グループ製品に貢献できる技術力を有していること。

#### ■ 調達取引先様へのお願い

サプライチェーンを通じて、持続可能な社会の形成へ貢献する為に、調達取引先向けに「東芝グループの調達方針について」を作成し、社会的責任に係わる要請事項を「調達取引先様へのお願い」にまとめ、取引先へ周知しています。

等々の観点から、関連法規遵守徹底に日々取り組んでおります。

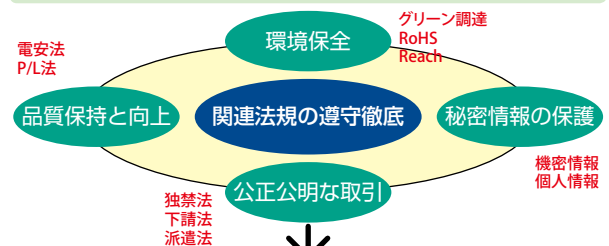
また、常日頃お取引先とコンタクトさせていただく中で、お取引先へのご依頼事項として、再度、お取引先自社内のコンプライアンスの周知徹底を図っていただくとともに、もし万が一トラブルが発生した場合を想定し、

- ① 速やかに弊社へ連絡を取ることができる体制の構築・強化
- ② トラブルシューティングを速やかに実行（素早く対応、影響を最小限に）できる体制の構築・強化

を改めてお願いしております。

### 調達におけるコンプライアンス

コンプライアンスは『事業継続と更なる発展』の為に最重要項目!!



お取引先におかれましては、万が一トラブルが発生した場合を想定し、  
 ① 速やかに弊社へ連絡を取ることができる体制の構築・強化  
 ② トラブルシューティングを速やかに実行（素早く対応、影響を最小限に）できる体制の構築・強化  
 を改めてお願いいたします。

### 東芝テック・パートナー・ホットラインの運用

前述の通り、東芝テックはすべての事業活動において法令、社会規範、企業倫理等の遵守（コンプライアンス）を経営の最優先項目としております。その一環として、物品の製造委託・購入、役務の提供等の取引（調達等の取引）において、当社関係者がコンプライアンス違反をした場合、またはそのおそれがある場合、調達お取引先にその旨を当社へお知らせいただく制度を構築・運用しております。当社自ら、そのような状態を正すため、調達お取引先通報制度『東芝テック・パートナー・ホットライン』を当社の社外向けウェブサイトにて開設しております。

調達お取引先からご指摘をいただくことで、オープンでクリーンな相互信頼関係を実現し、調達お取引先との健全なパートナーシップを育んでいきます。

## 調達におけるコンプライアンス

世の中では、企業の偽装や虚偽報告問題が連日のようにニュースとなり、該当企業は事業継続さえ危ぶまれる状況となっております。

このような中、東芝テックは、コンプライアンスを『事業継続と更なる発展』の最重要項目と位置づけ、日常業務の中での周知徹底を図っております。

特に資材調達部門としては、

- ① 環境保全（グリーン調達）
- ② 品質保持と向上
- ③ 秘密情報保護
- ④ 公正公明な取引

# 社会貢献活動

東芝テックグループでは、行動基準の中で「社会との係わり」に関する基本方針を明確化し、この方針に基づいてさまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

## 基本方針

### 基本方針

- (1) 地域社会との連帯と協調を図り、良好な関係を維持することにより、地域社会の一員としての責任を果たします。
- (2) 役員・従業員のボランティア活動等を支援するとともに、個々人の公民権の行使について最大限配慮します。
- (3) 東芝テックグループが事業活動を行っている国や地域の発展・向上に貢献することを目的として、公共性、地域社会の要請度合、理由等を勘案して、適時かつ適正な寄付を行います。

2007年度は、社業を活かした活動および従業員参加型のボランティア活動に注力しました。グループ会社や、本社がある品川区の社会福祉協議会と連携をとり、地域でのイベントに参加しました。

\* 社業を活かした活動は、[特集](#)ページにて詳しくご紹介しています。

## 社会貢献基金の活用

東芝テックでは、よき企業市民として社会福祉に貢献する事業を行うことを目的として、1992年に「東芝テック社会貢献基金」を創立しています。この基金は、従業員からの拠出金とそれと同額の会社からの拠出金をあわせ、地域および全国の社会福祉団体や、地震などによる被災者支援などに寄付しています。

### 社会福祉団体への寄付

- 中央共同募金会 → 10県、12施設に寄付
- 日本赤十字社静岡県支部 静岡県沼津赤十字血液センター → 右上参照
- 本社(品川区)地区 → 2施設に車椅子などを寄付
- 三島(三島市)地区 → 3施設に家電製品および三島市養護老人ホーム建設基金に寄付
- 大仁(伊豆の国市)地区 → 4施設に家電製品を寄付

### 緊急血液運搬車の寄贈

前年度の献血機材運搬車に引き続き、2007年度も日本赤十字社へ緊急血液運搬車を1台寄贈しました。地域医療の貢献に役立てていただくため、今後も活動を支援していきたいと思いをします。



なお、昨年10月にはこれまでの貢献に対し「金色有功賞」を授与されましたが、この度の寄付に対し日本赤十字社「社長感謝状」を受けました。



### 2007年度災害支援

- 能登半島地震 → 100万円
- 新潟県中越沖地震 → 200万円

# 東芝テック(全社)の活動

従業員が直接携わった活動を紹介しています。

## 地域貢献

清掃活動	計	89名
納涼会の開催	計約	3,200名
事業所の貸し出し		
チャリティーコンサート開催		
献血活動	計	834名
イベント*へのボランティア	計	20名
工場見学の受入	計	452名
インターンシップ研修の受け入れ		
交通安全啓蒙活動街頭指導		

2007年度は地域との交流を深めるべく、以下のイベントに当社従業員がボランティアとして参加しました。

- 「しながわ夢さん橋」ふくしまつり
- キッズISO国際認定証授与式
- 「こどもエコクラブ全国フェスティバル」



「しながわ夢さん橋」ふくしまつりでの作業

### 「しながわ夢さん橋」ふくしまつりに参加して

重い荷物を運んだり、雨でびしょびしょになったりでハードでしたが、かえて地域や事務局の方々と一緒に取り組むことができました。

久しぶりに学生時代の文化祭準備をしているみたいで楽しかったです。

ドキュメントシステム事業本部  
欧州営業部  
金井 由紀



## ハートフルベンダーの実績報告

2007年3月に設置を開始したハートフルベンダー（募金型自動販売機）が順調に設置台数を増やし、現在4台で稼働しています。



従業員の任意の金額と売上金の3%の合計金額が、東京都共同募金会を通じてさまざまな社会福祉事業に役立てられるというこの仕組みにより、一年間で39,600円の募金額を集めることができました。

## CSR掲示板での情報公開

2006年12月より運営しています。従業員向けで、社会貢献活動や環境ニュースなどを掲載しています。

1ヶ月のアクセス数 → 約1,200



CSR掲示板




東芝テックグループでは、国内外でもさまざまな活動に、従業員が進んで参加しています。各社社会貢献推進者との情報交換により、さらに一体感を強めていきたいと考えています。


-  献血
-  環境への取り組み
-  ボランティア
-  寄付・寄贈
-  その他 その他の活動


\* 各活動の報告に付けたアイコンは、上記の内容を表しています。

## 国内グループ会社



### テックエンジニアリング(株)

 能登半島地震、中越沖地震への義援金寄付


 献血活動参加

 清掃活動

地域社会への貢献として継続的に活動

  環境イベントへの支援・出展

企業ブースを設け、女子社員の制服リサイクル(植木鉢、軍手)の紹介、提供をしました。

 エコドライブ活動

全国の支社店、サービスステーションのカスタマーエンジニア約800名が参加し、全国600事業所中、京滋支店が全国入賞を果たしました。

 環境教育プログラム「キッズISO」の社外導入支援・社内推進

2004年から自治体支援、社員と家族への展開、国際認定授与式スタッフ活動を継続しています。2007年12月には約1,900ある東芝グループ社会貢献活動の中から社会貢献賞「ASHITA Award」を受賞することができました。


### キッズISO活動を通じて ～社会とのつながりを実感～


環境教育プログラム「キッズISO」のインストラクターとして、子ども達が取り組んだ省エネワークブックを評価しています。多くの企業・自治体とともに、同じ目的に向かって取り組むことで、社会とのつながりを強く意識するようになりました。

テックエンジニアリング(株)  
総務部 経営企画グループ  
金沢 直美



### 東芝テックビジネスソリューション(株)

 従業員による少年野球教室の開催


 お体の不自由な方のご自宅の除雪作業



除雪作業

 公立高校部活動振興会への寄付

### テックインフォメーションシステムズ(株)

 ペットボトルキャップの回収

NPO法人「Reライフスタイル」による、回収したペットボトルキャップの収益で、世界の子供たちにワクチンを送る活動に協賛しています。


46kgを集めることができました。

 キッズISOへの取り組み

小学校5年生を対象とし、従業員がインストラクターとなって子供たちの環境マネジメント活動のサポートを行っています。



参加した生徒さんからのお礼状

 インターシップ研修生の受け入れ

## 社会貢献活動

### ティー・ティー・ビジネスサービス(株)

#### ペットボトルキャップの回収

昨年度よりスタートし、回収した総量は434kgになりました。  
(ワクチン1名分 = ペットボトルキャップ800個)

#### ハートフルベンダーによる寄付活動

従業員による募金と売上金の3%を寄付しています。

### (株)ティーイーアール

#### 献血活動参加

#### 事業所周辺道路の清掃を月1回実施

#### その他 社会福祉法人の学園祭開催にともなう本社駐車場の提供

### テック製造(株) (旧:テック柏谷電機(株))

#### 献血活動参加

#### 募金活動

#### 清掃活動

#### その他 駐車場貸し出し

## 海外グループ会社

### ティムマレーシア社

#### その他 専門学校生を招待

当社の環境施設へ専門学校生13名を招待し、概要説明や施設の見学会を実施しました。

#### 清掃活動

マレーシア西北部のペナン植物園にある川の清掃活動キャンペーンに参加しました。地域団体の方々と当社従業員あわせて約35名で実施しました。



### 東芝テックヨーロッパ流通情報システム社 イギリス支部

#### 

環境への配慮とチャリティーへ寄付する関係から、クライアントやお取引先へクリスマスカードを送らないこととしました。その代わりに、約40万円を「マリ・キューリーガンケア」設立のために寄付しました。



### 東芝テック英国画像情報システム社

#### ホスピスへの寄付

サービスエンジニアのチームがクリスマスパーティー資金を地元のホスピスへ寄付しました。

#### ケーキセール

スタッフ数名によって手作りされたケーキをオフィス内でチャリティーのために販売しました。

#### “歌う”ドッグセラピスト

チャーリーは、一日中歌って人々を楽しませて元気にし、募金活動に協力してくれる人気者です。

#### その他 従業員のヘルスケア

良い活動をするためには、従業員同士のコミュニケーションと健康が大切です。人事グループでは月に一度、“健康新聞”を作成し、従業員に公開しています。また週に一度、従業員にフルーツのデリバリーを行い、健康促進を図っています。

#### ラッフルへの寄付

人事グループではラッフルの景品用にキッチン用品、本、洗面用具などを寄付しました。会社としてはDVDプレーヤーを寄付しました。収益はすべてチャリティーに使用されます。

\* ラッフル: 慈善を目的といたくじ。

#### ピンクデイ

従業員はピンク色の洋服を着て“特別な日”を過ごします。



#### ピンクデイについて

当社チャートシーの従業員は、乳がん治療に協力するため、ピンク色の洋服を着ること“ピンクデイ”を設けて募金活動をしています。2007年度は75万円の寄付をしました。

人事教育グループ  
ディレクター  
Elizabeth Burnell





## 東芝アメリカビジネスソリューション社

### 【その他】従業員への環境教育

社内で環境に関する配慮など、従業員向けの情報公開セッションを実施しました。また、出席者にはオフィスで使用される地球にやさしい商品(コーヒーマグ、フォーク、スプーンなど)と、同様に再使用できるエコバッグを配布しました。

### 【人】従業員子弟を事業所に招待

6～17歳までの従業員子弟60名を招待し、“CSR”にスポットをあてたセッションを実施しました。子供たちに3つのNPOの教育プログラムや環境への活動を紹介し、それらから“お気に入り”を選んでもらいました。子供たちに見事選ばれた“サーフライダー募金”に対し、30万ドル(およそ320万円)を寄付する予定です。



### 【人】海洋研究所へのサポート

地元コミュニティとのつながりを大切にしています。昨年と同様、「海洋研究所」(Ocean Institute)のサポートを続けています。「BUILD BOAT」イベントでは、従業員が個別にチームキャプテンを努めたり、他イベントでもスポンサーを努める予定です。



海洋研究所を訪れた子供たち

### 【その他】

慈善基金、スポンサー活動など、約200件の活動実績があります。

## 東芝テックアメリカ流通情報システム社

### 【人】クリスマスキャロルの実施

2002年より、病院や養護施設、教会に出向いて一緒にクリスマスのひとときを過ごしています。お年寄りや子供たちからは笑顔が溢れていました。



## 東芝テック深圳社

### 【地球】植林活動

毎年、継続して活動しています。

### 【ギフト】当社MFP (デジタル複合機)を寄付



四川省成都にある「パンダ研究基地」へ当社MFPを寄贈しました

\* 詳しくは特集ページに紹介しています。

### 【ギフト】小学校への寄付支援

2007年度も3校に25万円(およそ375万円)を寄付しました。



### 【その他】地元小学生を招待

廃棄物処理のためのリサイクル活動のような環境保護活動を理解してもらうために招待しました。



# グループ一体となった体制で環境経営を実践

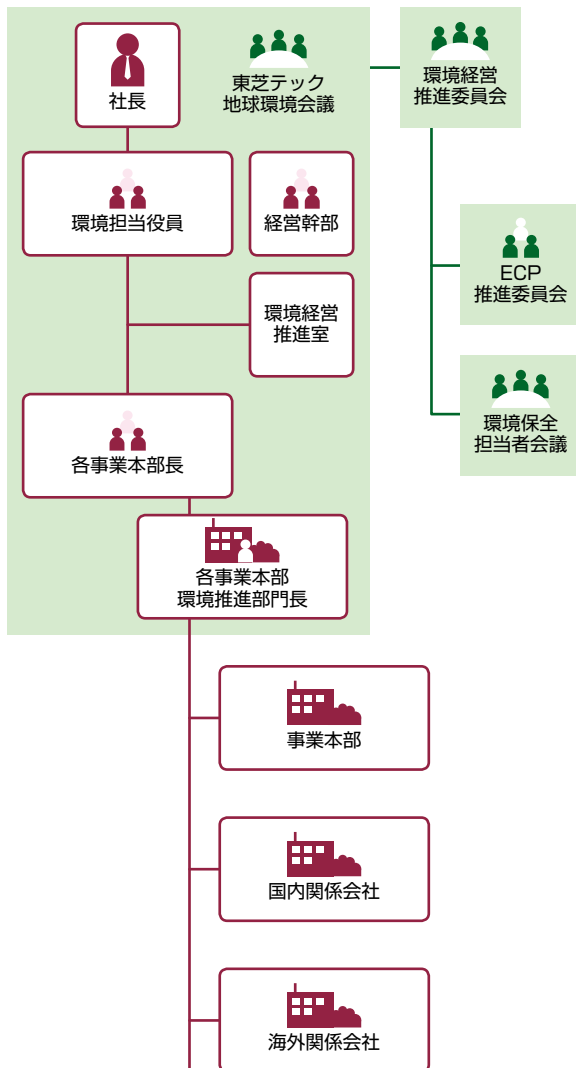
地球環境を健全な状態で次世代へ引き継ぐために、グループ全体の環境対応方針を決定し活動しています。環境経営推進のためにグローバルな体制を確立し、環境経営監査や環境会計により活動をチェックし、環境教育により従業員一人ひとりが環境活動を実践する風土作りをしています。

## 環境推進体制

東芝テックグループ全体の環境経営の方針や方向性を決定するため、環境担当役員を責任者として東芝テック地球環境会議を設置しています。この地球環境会議は、CSR推進委員会の活動の一つとして位置づけています。下部組織の環境経営推進委員会は、環境保全担当者会議とECP\*推進委員会を統括し、それぞれ事業所・工場および製品についての具体的な対応策を検討します。

\* ECP (Environmentally Conscious Products「環境調和型商品」)

### 環境推進体制



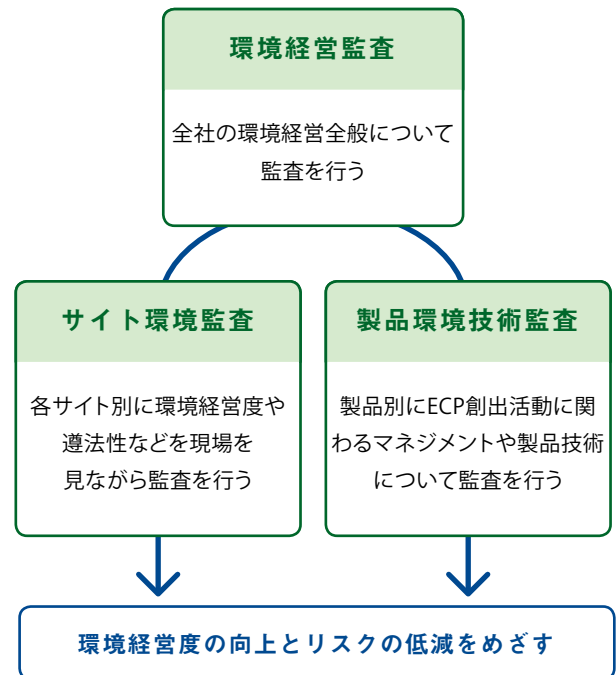
## 東芝グループ環境監査 (EASTER)

EASTER\*は東芝が独自に開発した環境監査システムで、1993年から東芝グループの各生産拠点で年1回実施されています。特徴は現場主義とレベル評価です。

2006年度からコンプライアンスの徹底などを目的とした、新しい基準で生産・非生産拠点の監査を実施しました。

\* EASTER (Environmental Audit System in TOSHIBA on basis of Eco-Responsibility 「東芝総合環境監査システム」)

### 東芝グループ環境審査(EASTER)



# 中長期環境戦略

2005年度から2010年度を目標にした第4次環境ボランタリープランを推進しています。その活動を京都議定書第1約束期間に合わせて2012年度まで延長しました。

## 第4次環境ボランタリープランの成果

### 2007年度の活動実績

東芝テックグループでは、東芝グループの第4次環境ボランタリープランの制定を受け、2005年度から2010年度を目標にした第4次環境ボランタリープランを推進しています。

2007年度はデジタル複合機の機種構成の影響で、環境調和型商品売上高比率が目標未達成となりました。

国内外生産拠点では各拠点の負荷低減施策により、いずれも目標を達成しました。

## 第4次環境ボランタリープランの2007年度実績

### 製品に関する目標

注)評価の○は2007年度目標達成、×は未達成、-は基準年度以降または目標年度で評価

推進項目	指標・目標	2007年度目標	2007年度実績	評価
1) 製品環境効率	2000年度を基準に2010年度に2.2倍 <sup>1)</sup>	1.74	2.59	○
2) 環境調和型商品の提供	2005年度に設定した新環境自主基準に適合した商品(環境調和型商品)の売上高比率を2010年度に60%に拡大	80%	69%	×
3) 特定化学物質	製品に含まれる特定15物質群 <sup>2)</sup> を2010年度に全廃	仕組みの構築	含有調査開始	○

### 事業プロセスに関する目標

注)評価の○は2007年度目標達成、×は未達成、-は基準年度以降または目標年度で評価

推進項目	指標・目標	2007年度目標	2007年度実績	評価	
1) 地球温暖化の防止	① エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量削減	国内生産拠点 実質生産高 <sup>3)</sup> CO <sub>2</sub> 排出量原単位を1990年度基準で2010年度に45%削減	42%削減	42%削減	○
		海外生産拠点 生産高CO <sub>2</sub> 排出量原単位を2004年度基準で2010年度に6%削減	3%削減	7%削減	○
	② 製品物流に伴うCO <sub>2</sub> 排出量削減	国内の東芝テック製品物流に伴うCO <sub>2</sub> 排出量を生産高原単位で2004年度基準で2010年度に18%削減	06年度基準で3%削減	06年度基準で15%削減	○
2) 資源の有効活用	① 廃棄物総発生量の削減	国内生産拠点 生産高総発生量原単位を2000年度基準で2010年度に30%削減	25%削減	32%削減	○
		海外生産拠点 生産高総発生量原単位を2004年度基準で2010年度に9%削減	4%削減	6%削減	○
	② 廃棄物最終処分量の削減	国内非生産拠点 最終処分量2010年度に全拠点で0.7%達成	全拠点1%以下	全拠点1%以下	○
		海外非生産拠点 最終処分量2010年度に全拠点で1%達成	-	6拠点平均5.7%	-
3) 化学物質管理	大気・水域への排出量削減 <sup>4)</sup>	国内:25%削減	国内:37%削減 海外:8%削減	○	

\*1: 対象は主要製品。製品の環境効率=製品の価値÷製品の環境影響

\*2: 東芝グループが定めた15物質

\*3: 実質生産高=[名目生産高]÷[日銀国内企業物価指数(電気機器)1990年度を1とした時の比率]

\*4: 対象は東芝グループが定めた449物質

## 第4次環境ボランタリープランの拡張

東芝テックグループでは第4次環境ボランタリープランの活動を、2008年4月に京都議定書第1約束期間に合わせて2012年度まで延長しました。エコプロダクツによるCO<sub>2</sub>削減目標の新設とともに、事業プロセスにおいて、地球温暖化防止の目標を上積みし取り組みを強化します。

推進項目	指標	対象	基準年	2008年度	2010年度	2012年度		
エコプロダクツ	製品のファクター		2000年度	1.88	2.20	2.55		
	環境調和商品の売上高比率		-			今後設定		
	エコプロダクツによるCO <sub>2</sub> 削減効果		2000年度	08年度データ把握、09年度目標設定		←新設		
	製品に含まれる特定15物質		-	80%	全廃	全廃		
エコプロセス	地球温暖化の防止	エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	海外	2003年度	12%削減	6%削減 ↓ 16%削減	20%削減	←上積み
		国内 <sup>1)</sup>	1990年度	40%削減	45%削減	50%削減		
		製品物流に伴うCO <sub>2</sub> 排出量原単位	国内	2006年度	24%削減	25%削減	25%削減	
	資源の有効活用	廃棄物総発生原単位	海外	2004年度	12%削減	9%削減 ↓ 20%削減	30%削減	←上積み
			国内	2000年度	20%削減	25%削減	30%削減	
		廃棄物ゼロエミッション(最終処分量)	国内	-	0.08%	0.7% ↓ 0.08%	0.08%	←新設
水受入量生産高原単位	海外	2004年度	10%削減	20%削減	30%削減	←新設		
	国内	2000年度	66%削減	68%削減	70%削減	←新設		
化学物質管理	大気・水域への化学物質排出量	海外	2004年度	40%削減	38%削減	36%削減	←新設	
		国内	2000年度	66%削減	68%削減	70%削減		

\*1: 実質生産原単位。また電力CO<sub>2</sub>排出係数は2001年度までに1990年度比20%低減、それ以降維持。

\*2: 海外は当該国・地域での再資源化ルートおよび焼却施設などインフラの整備が条件。

# 2007年度の環境負荷

地球資源からの採取や、汚染物質の放出を最小化し、環境調和型商品の開発など環境に配慮した活動を最大化していきます。また、製品のライフサイクルの各段階で環境負荷を把握、分析して環境負荷低減に取り組んでいます。

## ライフサイクルでの環境負荷

東芝テックグループの製品は、取引先から原材料・部品を調達し、加工・組み立てて出荷されます。製品は外部に委託した運送会社によって倉庫・販売店などへ輸送されます。お客様で使用済みになった製品はできるだけ回収し、再使用したり再資源化しています。

製品のライフサイクルの各段階で環境負荷を調べると下図のようになります。

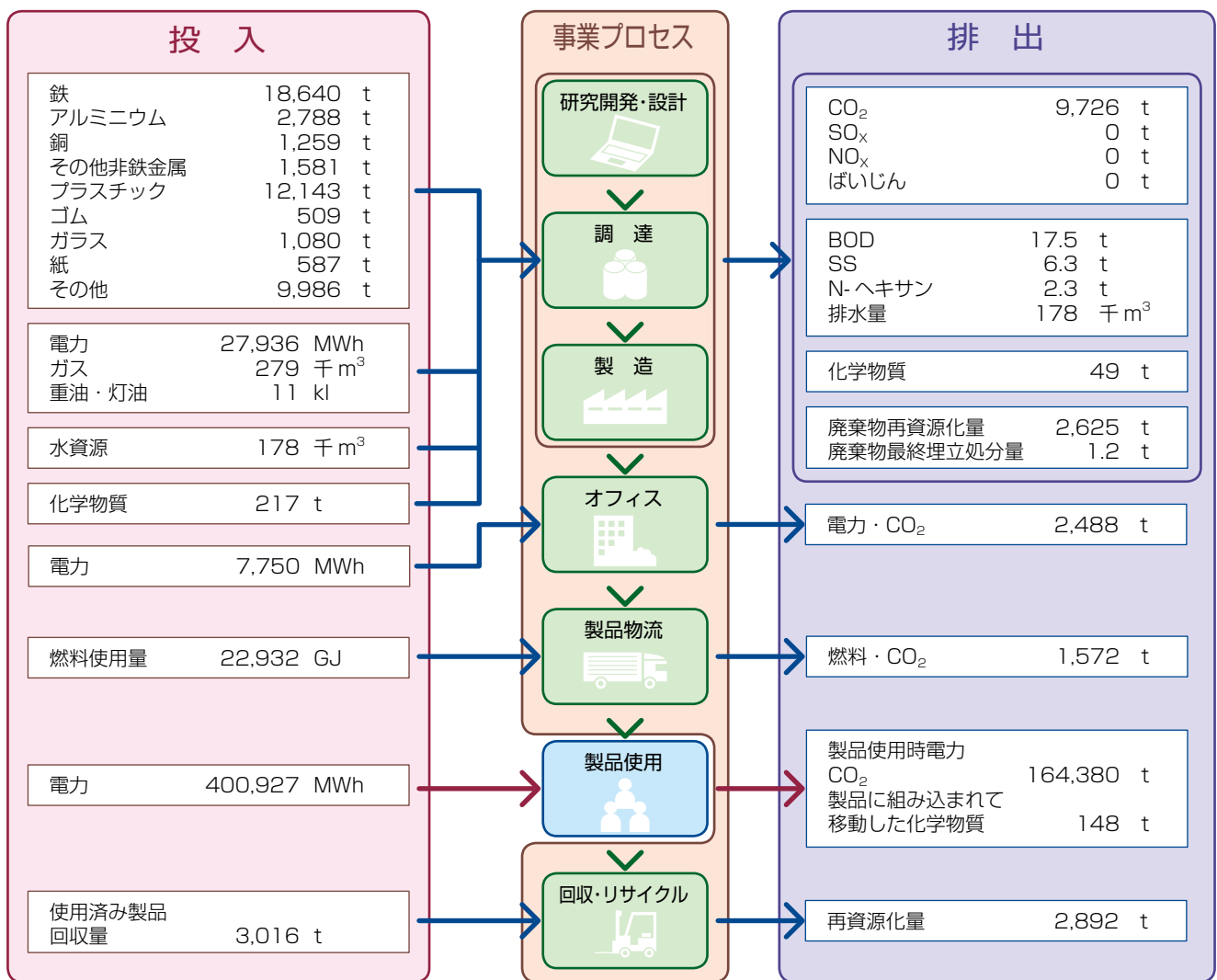
生産段階では、全エネルギー消費によるCO<sub>2</sub>排出量が工場で9,726

トン、オフィスで2,488トンです。化学物質（ここでは東芝グループが指定した449種の対象物質）の使用による大気・水域への排出が49トン、廃棄物の埋立処分量は1.2トン、また、排出物のリサイクル量は2,625トンなどです。

一方、2007年度に出荷した主要製品が製品寿命までの期間に排出するCO<sub>2</sub>排出量は約164,380トンとなっています。

このことから、製品の省エネルギーが重要であることがわかります。

### 2007年度の環境負荷



注)

- \*1 : 集計対象：東芝テックおよび国内関係会社。ただしオフィスは東芝テックのみ。
- \*2 : 材料・部品調達の投入：  
1)東芝テックは資材調達データから東芝グループ独自の手法で算出  
2)関係会社は主要製品の素材構成から算出した推計値
- \*3 : 化学物質の対象：東芝が指定した449物質

- \*4 : 製品物流：すべて外部委託分のCO<sub>2</sub>
- \*5 : 製品使用時のCO<sub>2</sub>：2007年度に出荷した主要製品が製品寿命までの期間に排出するCO<sub>2</sub>
- \*6 : 電力のCO<sub>2</sub>排出係数は電気事業連合会の使用端公表値0.425kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用



# 環境調和型商品の提供で、社会の環境負荷低減に貢献

製品のライフサイクル全体を通じて、環境負荷を低減した環境調和型商品の開発に取り組んでいます。  
東芝グループの環境効率指標「ファクターT」を運用しながら活動スピードを加速しています。

## 製品開発の考え方

東芝テックは、製品のライフサイクル<sup>1</sup>全体を通じて、環境負荷を低減した「環境調和型商品 (ECP<sup>2</sup>)」の創出に取り組んでいます。特に、製品のライフサイクル中に発生する環境負荷の大部分は、製品の企画・設計段階で決定されるため、製品開発の上流における取り組みに注力しています。

さらに、2004年度からは環境負荷低減とともに、当社製品に対するお客様の使い勝手や満足度などを「製品の価値」として組み入れた環境効率指標「ファクターT」を運用し、製品開発への反映と外部への情報開示を行っています。

今後は、さらに環境負荷の低減に努めるとともに、ますますお客様に満足していただける商品の創出に尽力していきます。


- \*1 製品のライフサイクル：原材料調達、製造、輸送、使用、リサイクル、廃棄に至るすべての段階
- \*2 ECP: Environmentally Conscious Products (環境調和型商品)

## 環境に配慮した製品開発への取り組み

東芝テックは、国内外の法規制への遵法はもとより、グリーン購入法への適合、エコマーク(日本)やブルーエンジェルマーク(ドイツ)、国際エネルギースタープログラムなどの主要な環境ラベルの取得を重視し、商品企画の段階からそれらの規格への適合をめざした製品開発に取り組んでいます。さらに、今後規制内容が具体化される欧州EuP指令や欧州REACH規則などへの対応の準備を進めています。

また、自主的な取り組みとしては、第4次環境ボランティアプランにおける製品関係の項目として、「製品環境効率の向上」、「環境調和型商品の提供」、「特定化学物質の全廃」、があります。

以下に、「環境調和型商品の提供」について紹介します。この取り組みは、商品群ごとに業界トップレベルの環境配慮事項を定めた「商品別環境自主基準<sup>\*3</sup>」を設定し、それを製品開発のターゲットとするものです。「商品別環境自主基準」は、製品のライフサイクル全体を通じて環境負荷を低減すべきとの観点から、製品ライフサイクルの各段階について環境配慮事項を定めています。この取り組みはすでに2001年度から実施していますが、2005年度から始まった第4次環境ボランティアプランではこれまでの基準を見直して、よりハードルの高い新基準を設定し、運用しています。

- \*3  商品別環境自主基準URL：  
<http://www.tec.jp/env/pos2.htm>  
<http://www.toshibatec.co.jp/gcompany/env/eco12.htm>

2007年度には、バーコードプリンタ、POSターミナル、電子レジスターなどの商品分野で新たな適合商品が生まれました。第4次環境ボランティアプランでは、2010年度までに環境調和型商品の売上高比率60%を目標としていますが、2007年度には69%を達成しました。

環境自主基準適合商品は、製品カタログなどに「東芝グループ地球環境マーク」を表示して情報開示を行っています。

以下は、新基準に適合した2007年度の環境自主基準適合商品の一例です。



バーコードプリンタ B-SX8R



バーコードプリンタ B-858



事務コン SJ-5500



電子レジスター MA-2055

## 環境効率・ファクターT

東芝テックは、2004年度より製品の価値と環境への影響を指標化した「環境効率」の考え方を取り入れ、基準年度と評価対象年度の製品の環境効率を比較した指標「ファクターT」の運用を行ってきました。「環境効率」は、製品の価値を、製品の環境影響で割ったもので、環境影響が小さいほど、また製品の価値が大きいほど、環境効率は大きくなります。製品の価値は、当社製品の使い勝手や満足度などのお客様の声をもとに、QFD (Quality Function Deployment; 品質機能展開) という手法で算出しています。また製品の環境影響は、LCA (ライフサイクルアセスメント) 手法を用いて、製品のライフサイクルにおけるさまざまな環境影響を統合して算出しています。なお、環境影響の統合化には、産業技術総合研究所ライフサイクルアセスメント研究センターがLCA国家プロジェクトと連携して開発したLIME (Life-cycle Impact assessment Method based on Endpoint modeling; 日本版被害算定型影響評価手法) を用いています。ファクターとは、評価製品の環境効率が基準製品の何倍かを表す値で、評価製品の環境効率が優れているほど、ファクターの値は大きくなります。

### ■「環境効率」の定義

$$\text{環境効率} = \frac{\text{製品の価値}}{\text{製品の環境影響}}$$

### ■「ファクター」の定義

$$\begin{aligned} \text{ファクター} &= \frac{\text{評価製品の環境効率}}{\text{基準製品の環境効率}} \\ &= \text{価値ファクター} \times (1/\text{環境影響ファクター}) \end{aligned}$$

第4次環境ボランティアプランの「製品環境効率の向上」においては、2000年度を基準に、2010年度にファクター2.2を目標として推進しています。

以下は、主要商品のファクターの一例です。この中で、「価値ファクター」とは基準製品に対する評価製品の価値の相対値、「1/環境影響ファクター」は同じく環境影響の相対値です。

### ■主要商品のファクターと改善ポイント

	ファクター 2.37 (2007/2000)	ファクター 2.60 (2007/2000)
商品名/機種名	 <p>デジタル複合機 e-STUDIO167</p>	 <p>電子レジスター MA-2055</p>
価値改善の主なポイント	<p>価値ファクター 1.58</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>消せるトナーを利用して用紙を繰り返し再使用可能</li> <li>操作パネルに大型ボタンやアイコン表示を採用</li> </ul>	<p>価値ファクター 2.88</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>視認性向上</li> <li>操作性向上</li> <li>迅速</li> </ul>
環境改善の主なポイント	<p>1 / 環境影響ファクター 1.50</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>消費電力削減</li> <li>軽量化</li> </ul>	<p>1 / 環境影響ファクター 0.90</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>待機電力削減</li> <li>有害物質カット</li> </ul>

# 環境調和型商品の提供のために、取引先や調達品の環境配慮を推進

取引先の環境保全評価や調達品の環境性能調査を実施し、設計・生産・資材などの部門で活用しています。

## グリーン調達への取り組み

東芝テックは環境調和型商品を提供するため、商品に関わる原材料などの調達段階での取り組みとして、グリーン調達を実施し、環境保全に積極的に推進している取引先から、環境負荷の小さい納入品の調達を行うことを指向しています。そのため、(株)東芝と協同で「グリーン調達ガイドライン」を策定しました。

## 取引先での環境保全の推進

調達にあたって、環境保全への積極的な取り組みを実施されている会社を優先します。

### 環境保全の取り組み

- 1) 環境方針の設定
- 2) 環境保全システムの整備
- 3) 教育や実施確認の仕組み



## 納入品への環境関連物質含有の管理

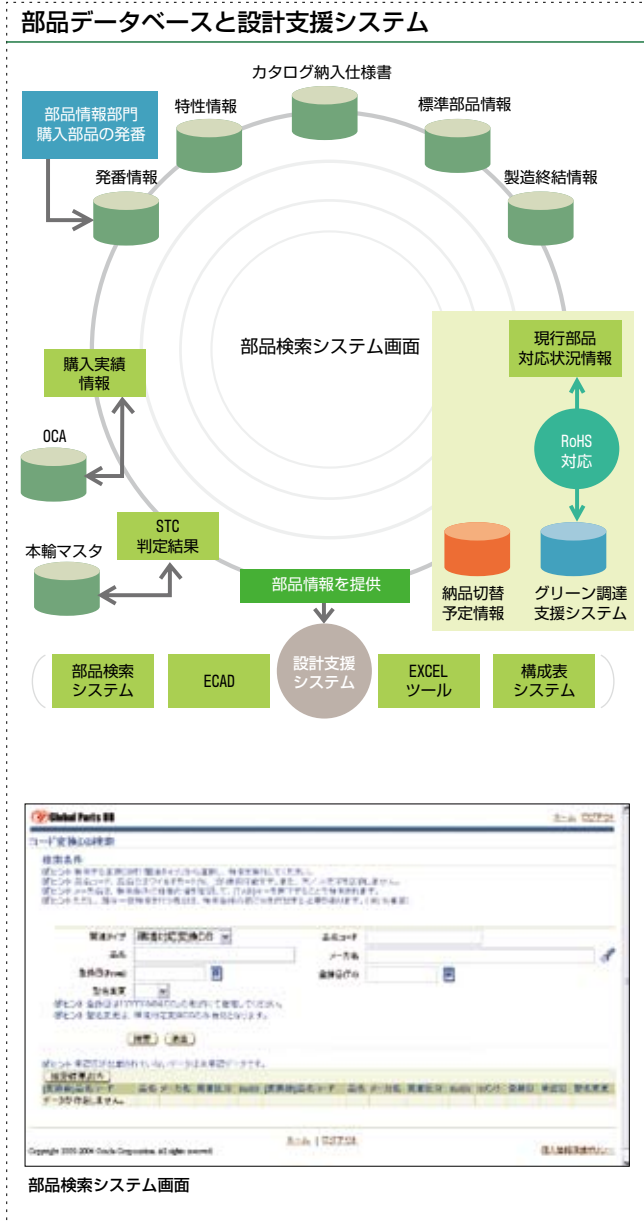
調達品について環境関連法規制の遵守、環境関連物質管理基準の遵守、および環境負荷の小さい納入の提供をお願いします。

### 環境関連物質含有管理

- 1) 関係部署や取引先への周知徹底
- 2) 環境関連物質管理に関する要求事項の実現
- 3) 環境関連物質使用状況調査への回答
- 4) 上記の回答にあたって必要情報の入手
- 5) 分析測定の実施・お取引先様からの分析結果の入手(必要に応じ)
- 6) お取引先様の管理体制の調査と把握

## データの活用

グリーン調達支援システムの環境性能情報をグローバル部品データベースを介して社内のさまざまなシステムに提供し、設計部門、生産部門、資材部門などで活用しています。



# 使用済み製品回収・リサイクル

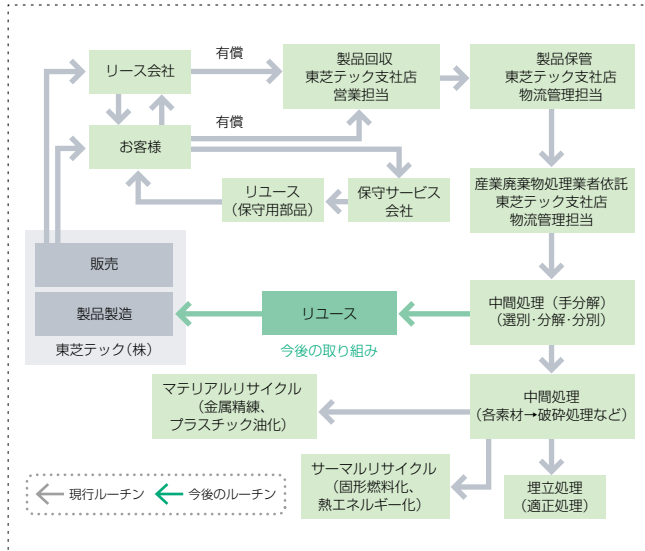
リテールソリューション機器は、東芝テックの各支社店が窓口となって回収しています。複写機は全国9拠点で回収・リサイクルを実施しています。

## リテールソリューション機器の回収・リサイクルシステム

東芝テックではPOSシステムのトップランナーの責務としてお客様の使用済み製品の回収・リサイクルに取り組んでいます。

回収・リサイクルシステムの対象地区を全国に拡大して北海道、東北、関東、中部、関西、中四国、九州の各地区ごとに回収・リサイクルを実施しています。

リサイクルは、回収した機器を手分解してできる限り素材単位への分別を行い、マテリアルリサイクルを拡大する方針で取り組んでいます。



## 回収・リサイクルシステム



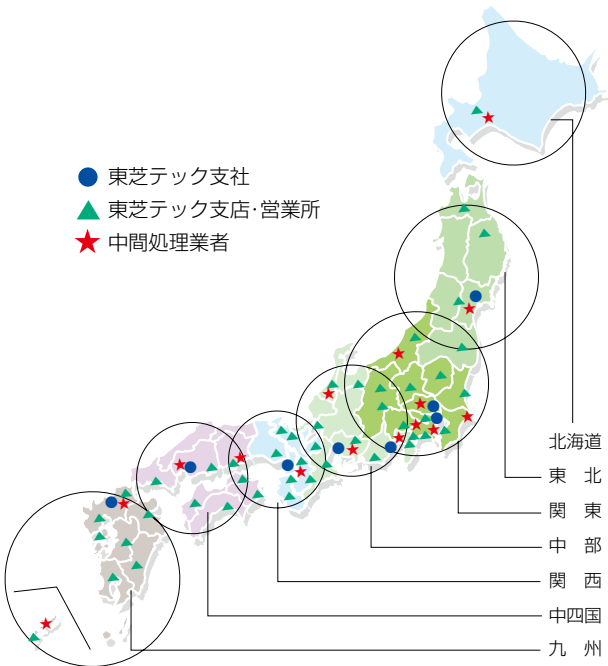
解体作業



回収製品例

### ●特長

- 全国54カ所の東芝テック支社店・営業所が窓口となり、使用済み製品を回収します。
- 使用済み流通機器は、メーカーを問わず回収します。
- お客様から 処分委託を受けるに当たり、有償化を促進します。
- 手分解による詳細な分解・分別作業により、資源のリサイクル率の向上、および廃棄物の抑制を実現します。



## 複写機の回収・リサイクル

東芝テックでは、お客様や販売元である東芝ビジネスソリューション株式会社、解体・リサイクル委託先である株式会社テルムなどと連携して複写機の回収・リサイクルを実施しています。

1998年から東京・神奈川地区で回収・リサイクルが開始し、現在は国内全域9拠点で実施しています。

回収された製品の分解作業は、再資源化しやすいように手作業で行い、素材単位まで分別するようにしています。その結果、98%以上が再資源化されています。

また、回収効率向上のために社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会(JBMIA)の交換センターを利用し、各社が回収した東芝テックの製品を引き取るシステムにも参加しています。

## 回収・リサイクルシステム



手分解作業



注) \*1: (社) ビジネス機械・情報システム産業協会の交換センター  
\*2: 交換センターの地域集荷拠点



# 事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量削減

事業活動にともなって排出されるCO<sub>2</sub>排出量を削減するための取り組みを進めています。なお、東芝テックグループではCO<sub>2</sub>以外の温室効果ガスの排出はありません。

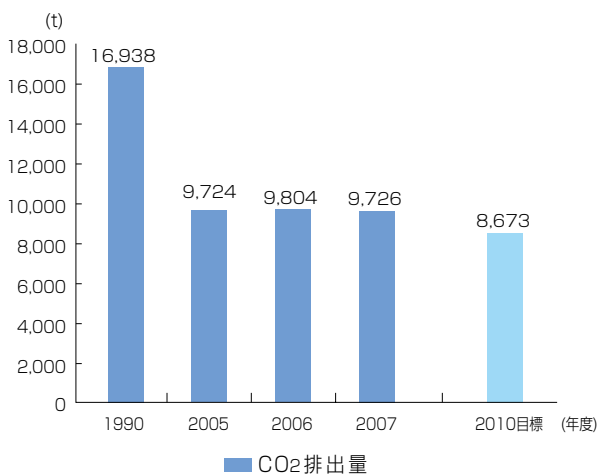
## エネルギー使用量増加の影響を最小限に

エネルギー使用にともなうCO<sub>2</sub>排出量を削減するために、国内工場だけでなく海外工場でも管理の改善、設備投資を通じた省エネルギーに取り組んでいます。

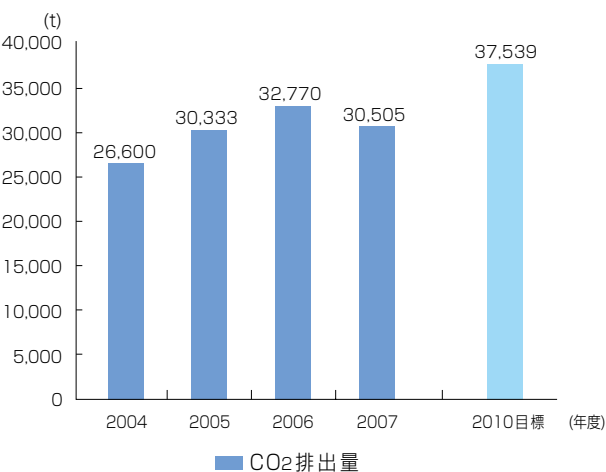
2007年度の国内のCO<sub>2</sub>排出量は前年度比横ばい、90年度比では43%減少しています。2007年度は、管理面の改善を継続すると共に、高効率なエアコンや照明へのリニューアルなどの設備投資による省エネルギー対策を実施しました。

海外工場でも空調や照明、動力設備などのムダ排除など管理強化で、CO<sub>2</sub>排出量は前年度比7%削減しました。

### 国内生産拠点のCO<sub>2</sub>排出量



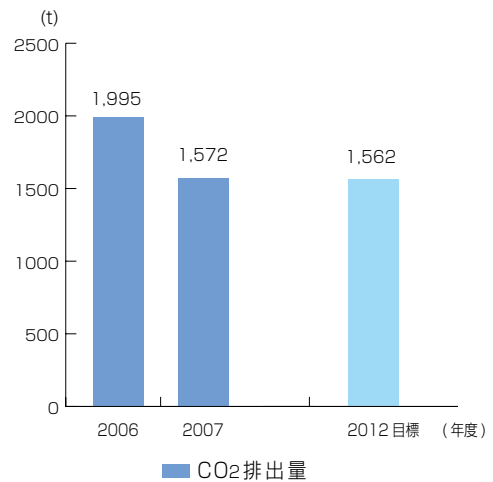
### 海外生産拠点のCO<sub>2</sub>排出量



## 物流での省エネルギーを推進しています

2007年度は生産量の減少もありましたが、積載効率の改善や配送ルートの効率化などにより、製品輸送にともなうCO<sub>2</sub>排出量は前年度比で21%削減しました。

### 製品輸送にともなうCO<sub>2</sub>排出量の推移



注) 対象はリテールソリューション事業、ドキュメントシステム事業およびオートID・プリンタ事業

# 事業活動に伴う廃棄物の発生抑制、化学物質の管理

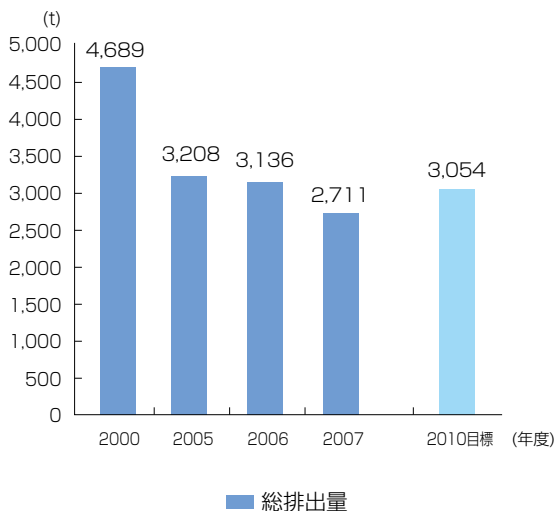
## 事業活動における廃棄物の発生抑制

### ■排出量の削減に取り組んでいます

2007年度の廃棄物の総発生量は対前年で国内では14%減少、海外でも4%減少しました。部品やユニットの納入をダンボールから再使用可能な通い箱への変更を拡大して削減しました。

また、国内の7つの生産拠点は2007年度もゼロエミッションを継続しています。海外の生産拠点では、国や地域で再資源化や焼却施設などによる最終処分量削減のための条件が未整備なところもあり、最終処分率の平均は5.7%でした。

国内生産拠点の排出量



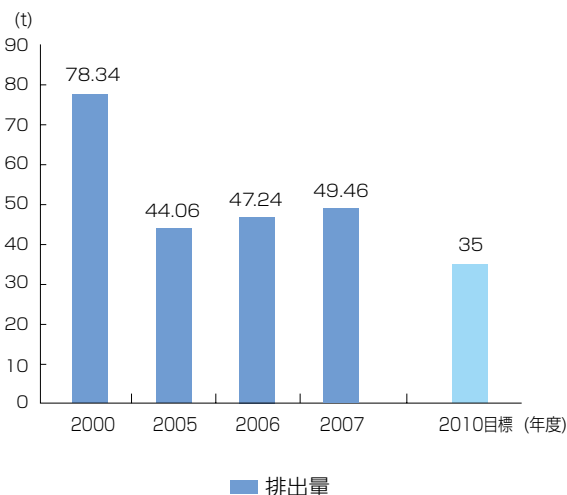
## 製造工程で使用する化学物質の管理

### ■排出量の削減に取り組んでいます

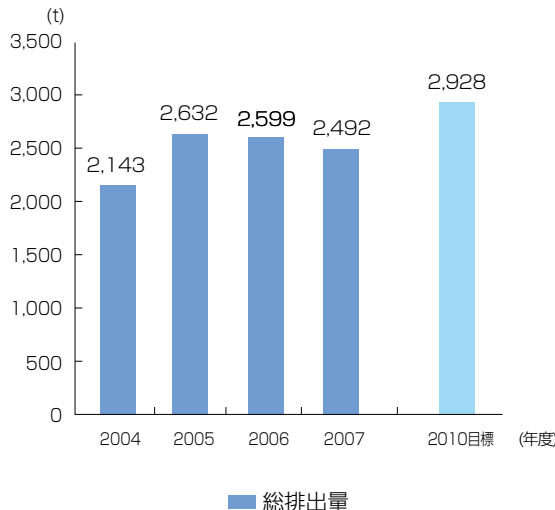
「有害な物質はできるだけ使用しない」「可能な限り削減・代替を進める」「使用する場合は適正に管理する」という方針に基づいて化学物質を取り扱っています。PRTR法など各種環境関連法に該当する物質を「禁止」「削減」「管理」の3種類に分類して管理・削減に取り組んでいます。「削減物質」については、環境に直接及ぼす影響が大きい排出量の削減に努めています。2007年度は対前年で国内では3%増加しましたが、海外では管理面の改善などを実施しましたが、5%増加となりました。

東芝テックグループではオゾン層破壊物質は全廃済みです。

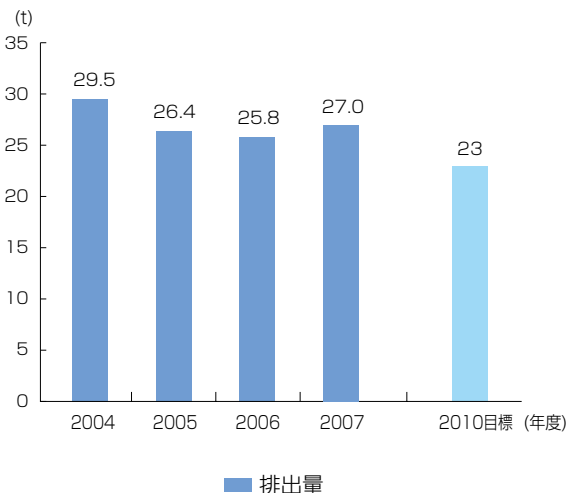
国内生産拠点の化学物質排出量



海外生産拠点の排出量



海外生産拠点の化学物質排出量



# 社会の皆様とともに環境活動を

社会のさまざまな立場の方々に東芝テックグループの環境経営をご理解いただき、ともに環境活動を推進するため、多様なメディアを通してコミュニケーションを図っています。

## 環境コミュニケーションの考え方

東芝テックグループは、経営理念で「人々の安全・健康と、地球資源の保全・保護のためにすべての事業活動において環境への配慮を最優先する」としています。持続可能な社会構築のために東芝テックグループは、常に環境問題と真摯に向き合っています。

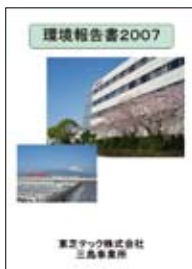
しかし、社会全体の環境問題への対応には、東芝テックグループだけでなく、社会のさまざまな立場の方々にご理解いただき、ともに活動を推進していくことが大切だと考え、環境問題に取り組む姿勢や活動に、さまざまなメディアを通じてコミュニケーションを図っています。

## 環境広報活動

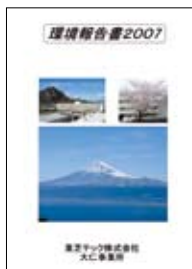
### ■環境報告書とウェブサイト

東芝テックグループは2000年から毎年環境報告書の日本語版と英語版を発行しています。2006年度からはCSR報告書として発行しています。

また、大仁事業所、三島事業所ではそれぞれのサイトの環境報告書を発行し、地域住民や行政に対して情報開示しています。



三島事業所



大仁事業所

ウェブサイトでは環境報告書、事業ごとの環境の取り組み、環境調和型商品などについて最新の情報を紹介しています。



社会環境活動



エコプロダクツ



社会・環境活動(CSR)についてのお問い合わせ

**WEB** 社会・環境活動(CSR) URL  
<http://www.toshibatec.co.jp/csr/report/indexj.html>

**WEB** 社会・環境活動(CSR)についてのお問い合わせ窓口URL  
<http://www.toshibatec.co.jp/contacts/csr/indexj.html>

### ■社内広報活動

事業所での広報活動の一例を紹介します。

#### ECPコーナー（大仁事業所）

技術部門のECPコーナーには、第4次環境ボランティアプランの取り組み、環境自主基準適合商品、ECP改善事例、東芝グループ環境展出版パネルなどを展示しています。



ECPコーナー

#### 環境ニュース

「環境月間」、「3R推進月間」、「地球温暖化防止月間」、などのトピックスのほか、月間推進項目などの紹介をしています。



環境ニュース

#### 環境コーナーと電光掲示板（三島事業所）

正門近くの掲示板に環境方針、組織、計画の推進状況、環境ニュースなどを掲示しています。さらに電光掲示板を使った文字情報の提供も併せて行っています。この電光掲示板に使用する電力は事業所内の風力発電でまかっています。



環境コーナー（IMSコーナー）、電光掲示板

詳しい環境情報は  
 ウェブサイトで報告しています。



<http://www.toshibatec.co.jp/csr/environment/indexj.html>

#### ●環境経営マネジメント

- ・環境推進体制
- ・環境活動
- ・中長期環境戦略
- ・環境会計
- ・事業場環境マネジメント

#### ●エコプロダクツ

- ・環境調和型商品開発
- ・環境負荷低減
- ・グリーン調達
- ・使用済み製品回収・リサイクル・部品リユース
- ・環境ラベル・グリーン購入法

#### ●エコプロセス

- ・温暖化防止と省エネルギー
- ・廃棄物削減と省資源
- ・化学物質管理
- ・物流環境負荷低減への取り組み

#### ●環境コミュニケーション

(2008年 7月現在)



立命館大学 産業社会学部教授

**篠田 武司氏**

名古屋大学大学院経済学研究科博士課程修了。  
専門分野は社会経済学。  
経済理論学会、進歩経済学会、北ヨーロッパ学会などに所属。

現在の研究課題は、グローバル化の中での新たな経済的・社会的ガバナンスのあり方、ならびにワーク・ライフバランスの比較研究。調査対象地域としては北欧とラテンアメリカ。

本年度の「CSR報告書」の特徴は、昨年の報告書と比べて社会貢献活動への取り組みをより具体的に紹介し、また新たにそこに参加した従業員の生の声などを載せながら、読みやすく、親しみのもてるものになっていることです。そして、そうすることによって全体としてCSRの活動をより一層全社的なものにしていくという方向性を今年には明確に打ち出していることです。現在、多くの企業がCSRに取り組んでいます。そこでは、理念の設計や目標の設定、あるいはその執行体制の確立など、着実にその取り組みは進んできているかにみえます。しかし、なかにはCSRは経営陣、あるいは執行責任部署のみの実行にとどまっている企業もあります。CSRは、全社的に取り組んでこそ大きな成果に結びつくものであり、その自覚がまた必要とされています。東芝テックは、2004年から、従業員に経営理念が職場で具体的に実践されているかのサーベイを始めています。また、国内外の関連会社にもそれを広げています。こうした、取り組みの中で、さらにCSRへの関心を全社的なものにするために、本年度の「CSR報告書」のなかで眼に見える取り組みを親しみやすく具体的に紹介していることは重要だと考えます。さらに、たとえば環境調和型の製品開発の際の苦勞、あるいは全階層で実施されている環境教育の講義の感想など、生の声をもっと伝えることができたなら一層親しみの持てるものになったかもしれません。「CSR報告書」は、単なるステークホルダーへの報告書ではありません。それは、全社的な啓蒙活動のツールでもあり、そうした捉え方が本年度は明確になっており、評価したいと思います。

さて、内容についていくつかを指摘したいと思います。

第一に、2004年からはじまった「第4次環境ボランタリープラン」

です。それまでの基準と比べてよりハードルの高い基準を設定しましたが、全体として順調に進捗しているようでその努力は高く評価できます。また、今年から率だけでなく、目標が総量で示されたことも具体的で評価できます。ただし、海外でのCO<sub>2</sub>排出量原単位が増えているのが気になります。世界的な流れとしてCO<sub>2</sub>の削減は、総量での規制が大きな流れとなってきているかに見えます。グローバル企業としては海外の生産拠点も含め、削減目標をどのように設定していくのかあらためて今後検討していくことが必要になってくるのではないのでしょうか。またこの2008年度版から「環境会計」についての記載が「報告書」からウェブサイトでの公開に移りました。さまざまなステークホルダーの読みやすさを考えての配慮と聞いておりますが、重要な情報だと考えますので、「報告書」上での掲載がいいのではないのでしょうか。

第二に、社会性についてです。まず、従業員について。環境面では、具体的な目標をもつアクションプランが設計されていますが、この面においても具体的な目標と取り組みの実態に関する報告が必要になってきているかと思えます。たとえば、育児休職などの制度はどの程度利用されているのか、またどの程度の利用を目標にしているのか。そうした具体的な数字を示すことによって、こうした制度への意識が向上するとともに、制度の課題も見えてくるかと考えます。ちなみに、関連する「東芝グループCSR報告」では、利用実績等の表などが示されています。ここでもまた、上記で述べたように従業員の声などを聞き、それを報告書に反映させることもCSRを全社的にしていく上で重要かと思えます。

次いで、社会貢献活動について。報告書からは多彩な活動が展開されていることが伺えます。注目したいのは市民・地域団体との協力による活動が重視されていることです。地域や社会への貢献活動は、こうした団体との協力の中ではじめて地域の要望を学び、充実させていくことができます。今後も、こうした協力関係を維持、拡大していくことを望みます。

第三に、CSR調達についてです。グローバル企業である当社にとって、特にアジア諸国を拠点とする製造現地法人をもつ当社にとって、CSR調達は大変重要だと考えます。グリーン調達だけでなく、現在、それは労働、人権遵守も考慮した調達であることが必要となっています。東芝テックでも今年度アジア地区で児童労働の調査をされると聞いています。今後とも、国連の「グローバル・コンパクト」にのっとった企業をめざすとともに、そうした原則を調達にも引き続き生かすことを継続していただきたいと思えます。そのためには、定期的な調査も必要となるでしょう。ちなみに、グローバル企業として、国連の「グローバル・コンパクト」に積極的に参加していることを報告書でも示されてはどうでしょうか。当社にとっても意義あることかと考えます。

最後に、昨年の報告書へのアンケートを今年に生かしていること。こうした応答も企業のCSRの姿勢を示すものであり、評価できます。今後も引き続き重視されることを願います。



# GRIガイドライン対照表 2006年度版 (GRI: Global Reporting Initiative)

GRI ガイドライン項目と、東芝テックグループCSR 報告書2008 における該当ページを記載しています。

## 1. 戦略および分析

- 1.1 戦略に関する組織の最高意思決定者の声明 ..... P.5

## 2. 組織のプロフィール

- 2.1 組織の名称 ..... P.1
- 2.2 主要な製品/サービス ..... P.7
- 2.3 組織の経営構造 ..... P.9
- 2.4 組織の本社の所在地 ..... P.1
- 2.5 報告組織の所在国名 ..... P.1
- 2.6 所有形態の性質および法的形式 ..... P.1
- 2.8 以下の項目を含む報告組織の規模 ..... P.1

- 従業員数、純売上高あるいは純収入、提供する製品またはサービスの量

## 3. 報告要素

- 報告書のプロフィール

- 3.1 提供する情報の報告期間 ..... P.1
- 3.2 前回の報告書発行日 ..... P.1
- 3.3 報告サイクル ..... P.1
- 3.4 報告書に関する質問の窓口 ..... 裏表紙

- GRI内容索引

- 3.12 報告書内の基準開示の所在場所を表す表 ..... P.40、ウェブサイト

## 4. ガバナンス、コミットメントおよび参画

- ガバナンス

- 4.1 最高統治機関の下にある委員会を含む統治構造 ..... P.9-10
- 4.2 最高統治機関長の執行役員兼務 ..... P.9
- 4.8 組織内で開発した使命および価値についての声明、行動規範および原則 ..... P.6
- 4.9 関連のあるリスクと機会および基準、行動規範および原則への遵守 ..... P.10

- 外部へのイニシアティブへのコミットメント

- 4.11 予防的アプローチまたは原則への取り組み ..... P.10-12
- 4.12 外部で開発された、組織が同意または受諾するイニシアティブ ..... P.1, P.40

- ステークホルダー参画

- 4.14 組織に参画したステークホルダー・グループのリスト ..... P.1

## 5. マネジメント・アプローチおよびパフォーマンス指標

<経済>

<環境>

- 環境パフォーマンス指標

原材料

- EN1 ..... P.31

エネルギー

- EN3 ..... P.31
- EN4 ..... P.31
- EN5 ..... P.30

排出物、廃水および廃棄物

- EN16 ..... P.31, P.36
- EN17 ..... P.31
- EN19 ..... P.37
- EN20 ..... P.31

製品およびサービス

- EN26 ..... P.32
- EN27 ..... P.31, 35

輸送

- EN29 ..... P.36

<労働慣行とディーセントワーク(公正な労働条件)>

- 労働慣行とディーセントワーク(公正な労働条件)パフォーマンス指標

労働安全衛生

- LA8 ..... P.22
- LA9 ..... P.22

研修および教育

- LA11 ..... P.20

<人権>

<社会>

- 社会パフォーマンス指標

コミュニティ

- SO1 ..... P.11-12

<製品責任>

- 製品責任のパフォーマンス指標

製品およびサービスのラベリング

- PR5 ..... P.17

# 問い合わせと対応

## 「東芝テックグループCSR報告書2007」発行数

日本語版4,000部、英語版2,000部、その他電子版を東芝テックウェブサイトの社会活動(CSR)のページ上にも掲載しました。

## CSRウェブサイトのヒット数と訪問数(07.4-08.3)

ヒット数 212,476件  
訪問数 61,280件

## <アンケート>「CSR報告書2007」にいただいた主なご意見

- 全体的に情報量が多い
- グラフ・図表を多用しておりわかりやすい
- 今年度重点的に取り組んだ活動などが見えづらい
- もっと社員の顔を出してはどうか
- 色、文字をもっと見やすくしてほしい



### ■2007年度より改善させた項目

- 2007年に重点的に取り組んだ活動を「特集」ページとして掲載しました
- 見やすい色、文字の濃さ・大きさに配慮しました
- 従業員の声を載せました

## 企業広告始めました！

企業認知向上の一環として、2007年からテレビ、新聞、雑誌で企業広告を実施しています。タレントの滝沢沙織さんを起用し、華やかでスタイリッシュなイメージに仕上げました。



# 『東芝テックグループCSR報告書2008』をご覧いただき、ありがとうございました。

皆様のご意見、ご感想をお聞かせください

FAX : 03-6422-7111 東芝テック(株)総務部 CSR 推進センター

お読みになって、東芝テックのCSR活動をどのように評価されましたか？

- 非常に評価できる     評価できる     普通     あまり評価できない     全く評価できない

この報告書をお読みになってどのようにお感じになりましたか？

- |        |                                 |                             |                                 |
|--------|---------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| 内容     | <input type="checkbox"/> 充実している | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 不足している |
| ページ数   | <input type="checkbox"/> 多い     | <input type="checkbox"/> 適当 | <input type="checkbox"/> 少ない    |
| デザイン   | <input type="checkbox"/> 良い     | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 悪い     |
| 分かりやすさ | <input type="checkbox"/> 分かりやすい | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 分かりにくい |

■この報告書の内容のうち、特に印象に残った項目は何でしたか？（複数回答可）

- |          |                                       |                                     |                                   |                                   |  |
|----------|---------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|--|
| 序章       | <input type="checkbox"/> トップメッセージ     | <input type="checkbox"/> 特集         | <input type="checkbox"/> 経営理念     | <input type="checkbox"/> 事業展開     | <input type="checkbox"/> 中期経営計画        |
| マネジメント   | <input type="checkbox"/> コーポレート・ガバナンス | <input type="checkbox"/> CSR マネジメント | <input type="checkbox"/> コンプライアンス | <input type="checkbox"/> 品質マネジメント | <input type="checkbox"/> 環境経営マネジメント    |
| 人と東芝テック  | <input type="checkbox"/> 株主・投資家       | <input type="checkbox"/> お客様        | <input type="checkbox"/> 従業員      | <input type="checkbox"/> 取引先      | <input type="checkbox"/> 社会貢献活動        |
| 環境と東芝テック | <input type="checkbox"/> 環境経営マネジメント   | <input type="checkbox"/> エコプロダクト    | <input type="checkbox"/> エコプロセス   | <input type="checkbox"/> 第三者意見    | <input type="checkbox"/> GRI ガイドライン対照表 |
|          |                                       |                                     |                                   | <input type="checkbox"/> 問い合わせ    |  |

この報告書をどのようなお立場でお読みになりましたか？

- |                                 |   |   |                                       |                                  |
|---------------------------------|---|---|---------------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> お客様    | <input type="checkbox"/> 取引先              | <input type="checkbox"/> 株主             | <input type="checkbox"/> 政府・行政関係      | <input type="checkbox"/> 研究・教育関係 |
| <input type="checkbox"/> 報道関係   | <input type="checkbox"/> 金融・投資機関          | <input type="checkbox"/> 企業・団体の環境担当者    | <input type="checkbox"/> 企業・団体の購買担当者  |                                  |
| <input type="checkbox"/> 環境の専門家 | <input type="checkbox"/> 環境NGO・NPO        | <input type="checkbox"/> 東芝テックが立地する地域の方 | <input type="checkbox"/> 東芝テックの従業員・家族 |                                  |
| <input type="checkbox"/> 学生     | <input type="checkbox"/> その他(具体的に: _____) |   |                                       |                                  |

この報告書をどちらでお知りになりましたか？

- |   |   |                                     |
|---|---|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 東芝テックのウェブサイト     | <input type="checkbox"/> 東芝テック以外のウェブサイト | <input type="checkbox"/> セミナー・講習会   |
| <input type="checkbox"/> 新聞・雑誌            | <input type="checkbox"/> 業会団体           | <input type="checkbox"/> 展示会        |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に: _____) | <input type="checkbox"/> 東芝テック関係営業担当    | <input type="checkbox"/> 東芝テックからの送付 |

CSR 活動全体についてご意見がありましたらお書きください。

( ご意見 : \_\_\_\_\_ )

CSR 報告書を今後継続して発行するために、内容についてのご意見や改善点をご提言ください。

( ご意見・ご提言 : \_\_\_\_\_ )

# 東芝テック株式会社

総務部 CSR推進センター

〒141-8664 東京都品川区東五反田2-17-2 (オーバルコート大崎マークイースト)

TEL. 03-6422-7039 URL. <http://www.toshibatec.co.jp>

FAX. 03-6422-7111 e-mail. [csr@toshibatec.co.jp](mailto:csr@toshibatec.co.jp)



この印刷物は、植物油100%の「大豆油インキ」を使って、「水なし印刷」で印刷しております。